

令和4年度

研修集録

第 37 号

秋田市立秋田商業高等学校



人づくりのための 「ICT活用」の在り方とは

校 長 瀧 澤 徳 彦

未曾有のコロナ禍は、まだまだ先のことと思い描いていた教育のICT化をかつてないスピードで強力に推し進めた。その分野では先行し様々なモデルケースに取り組み、実践例を提案してきた商業科を、校種や教育課程の異なる学校が猛追している印象である。一人一台導入された端末を駆使しつつ、生徒の深い学びを実現するために、授業や行事など教育活動全般において、ICTの効果的活用が目標ではなく、使命になった。

本校では、これまでのAKISHOPなどの特徴的かつ実践的な取り組みをより深化させるべく、ICTの活用が模索されている。タブレット等の機器の操作については生徒たちの方がずっと精通している。夢中になり機器を操作している「活動」の様子は実に意欲的に主体的な姿に映る。しかし、「使う」ことが目的化してはいないか、その活動は生徒にどんな力を付けることを目標に設定されているのか、活動の主体である生徒にその意義がしっかり伝わっているのだろうか。時々そんな疑問を感じた。

ここで再確認したいことがある。それは、商業教育の中心は「人づくり」だということだ。確かにICTは物理的な、心理的な距離を縮め、多様な場面で人々との交流を加速させた。しかし、それはあくまでも「リアル」な対面での人間関係の構築があればこそ、より効果を発揮すると考える。そのため、ICTの活用は「人づくり」にどれだけ資することができるかを常に意識することが大切だ。その意味ではコロナ禍でのAKISHOPはアフターコロナにおける在り方をICTの活用を通じて考える契機になっている。これまでもAKISHOPの準備には話し合いを深める時間の確保が課題となっていた。コロナ禍で話し合いの場を設けることさえも困難な状況でICTはその威力を発揮した。授業以外の時間でも生徒が商品開発のアイデアや何気ない発見をClassroom等通じて発信することができた。時間や場の制約がないことが、生徒の自由な思考を後押しし、気軽につぶやくことのできる環境が各自の意見を言いやすく、共有しやすい状況を作り出した。そこは生徒が個性を発揮し自己肯定感を高める場であり、同時に仲間の「発言」に刺激を受けて、自らの思考を深め、互いに高め合う場の役割も果たした。画面上でのやりとりではあるが、その場の雰囲気づくりは「リアル」な対話の場でも活かされた。「チームで働く力」を向上させるには、横、縦の繋がりが不可欠だが、Classroomは意思疎通を深めるきっかけづくりに有用だったと言える。このように、ICTをきっかけに、いかにして生徒の自己肯定感と向上心を高めるかが大切であり、それが生徒の主体性を引き出し、知的好奇心を刺激し、生徒自身の深い学びに繋がっていくと考える。

この「きっかけ」を与える授業の工夫、生徒が自らの力で学びを深めていくための「仕掛け」を日々考え実践していくのが教員の役割である。「教える」場面も確かに必要だが、もっと生徒の感性や共に学ぶ力を信じ、生徒理解のもとにICTを生徒を輝かせる手段として大いに活用したいものだ。コロナ禍で見えてきた課題に一石を投じ、商業人としての人間力を今こそ発揮すべき時ではないだろうか。秋商だからこそ、教員と生徒の信頼関係、生徒同士の繋がりを深め、リアルなコミュニケーション力に基づく創造的な活動を通じた「人づくり」ができると確信している。

新たな時代の可能性を拓く「道標」として、ICT教育の先進的なモデルの提案という形で学習成果を発揮することが本校に課せられた使命であり、次の100年を見据えた存在意義の大きさであると自負している。

目 次

巻頭言 人づくりのための「ICT活用」の在り方とは	校長 瀧澤 徳彦	1
Ⅰ 指導主事訪問		
1. 日程	教務部	3
2. 研究授業の指導案と協議会		
① 理科；授業者（加茂谷糸恵）・協議会記録（各記録係）	理 科	4
② 商業；授業者（須田州逸・嶋田平）・協議会記録（各記録係）	商業科	11
3. 全体協議会	教務部	17
Ⅱ 校内研修の記録		
1. 年間実施報告	研修部	20
2. 授業公開週間 実施報告	研修部	21
3. ICT機器を使った授業実践例	研修部	34
4. 次年度に向けて	研修部	41
Ⅲ 報告		
1. ビジネス実践		
① AKISHOP	商業科 大久保 薫	45
② キッズビジネスタウン	地歴公民科 今 聡	48
③ エコロジカルビジネス	英語科 石塚 禎子	50
2. センター研修		
A講座		
① 「教職5年目研修講座（高等学校）」	商業科 佐藤 友弥	51
② 「実践の指導力向上研修講座（高等学校8年目）」	商業科 千葉 知美	53
③ 「中堅教諭等資質向上研修講座（高等学校）」	商業科 須田 州逸	55
④ 「県立学校新任教務主任研修講座」	商業科 石田 雄哉	65
⑤ 「高等学校新任学年主任研修講座」	英語科 関屋さやか	67
B講座		
① 「各教科等の指導における資質・能力の育成に向けた言語活動の充実」	国語科 柴田佳代子	69
② 「これからの運動部活動の在り方」	商業科 石塚 委	71
C講座		
① 「高等学校情報科におけるプログラミング／高等学校情報Ⅰにおける指導の充実」	商業科 佐々木一秀	72
3. 令和4年度 東北六県商業教育研究大会		
① NIE教材を用いた効果的实践の研究 ～答えのない問いの解決に励む生徒の育成を目指して～	商業科 千葉 知美	77
② 秋田県の総合的科目における取り組み －外部講師等を活用した授業実践－	商業科 柏谷亜紀子	81
Ⅳ 令和4年度研修対象者・研究会等参加者一覧		85
Ⅴ 編集後記	研修部	87

令和4年度 指導主事訪問

1 期日 令和4年10月27日(木)

2 訪問指導主事

秋田市教育委員会学校教育課主席主査指導主事(英語)

安田 しずか 先生

秋田市教育委員会学校教育課主席主査指導主事(理科)

進藤 義明 先生

秋田県高校教育課指導班主任指導主事(理科)

伊藤 匡 先生

秋田県総合教育センター研修班指導主事(商業)

鈴木 紀子 先生

3 研修テーマ

学ぶ意欲を高め、深い学びへと導くための授業改善

～ICT機器の活用による主体性の涵養を目指して～

4 日程

時 間	校時	日 程	授 業
9:10～9:55(45)	1		木曜1校時授業
10:05～10:50(45)	2	10:30頃指導主事来校 10:35～10:50学校経営の説明〈校長室〉	木曜2校時授業
11:00～11:50(50)	3	一般授業	木曜3校時授業
11:50～		指導主事〈校長室〉	※2A、3E以外の生徒下校 ※当日の部活動なし
12:05～12:55(50)	4 特定授業	科目名:理科・科学と人間生活 内 容:微生物の発見 授業者:加茂谷 糸恵 先生 生 徒:2年A組35名〈2A教室〉 科目名:商業・ビジネス情報管理 内 容:ウェブプログラミングの基礎 授業者:須田 州逸 先生 嶋田 平 先生 生 徒:3年E組40名〈105教室〉	※全教員がどちらかの授業をオンラインで見学します。 参観場所 理科:語学室 商業:会議室 ※各教科主任は教室で参観します。
12:55～13:40(45)		昼食	
13:40～14:20(40)	研究協議会	○理 科〈語学室〉 協議題:ICTを活用した授業実践・授業改善について ○商業科〈会議室〉 協議題:学ぶ意欲の向上や深い学びへと導く、Google Formsを活用した授業改善について	※全教員が、見学した教科の研究協議会に参加します。 ※Google Jamboardを活用したKJ法による協議
14:30～15:10(40)	全体会	〈会議室〉 ①総評 秋田市教育委員会学校教育課主席主査指導主事 安田しずか先生 秋田県高校教育課指導班主任指導主事 伊藤 匡 先生 ②校長より	

理科（科学と人間生活）学習指導案

日 時：令和４年１０月２７日（木）

１２：０５～１２：５５（４校時）

対 象：２年Ａ組 ３５名

教科書：科学と人間生活 新訂版（実教出版）

授業者：加茂谷 糸恵

１ 単元名 ３章 生命の科学 ２節 微生物とその利用 （２ 微生物の発見）

２ 単元の目標

- ・地球上のあらゆる場所に微生物がいることを学習させる。また、微生物の種類について理解させる。
- ・微生物の発見と研究の歴史について学習させるとともに、パスツールがどのようにして生物が自然発生しないことを証明したかについても理解を深めさせる。
- ・発酵が私たちの生活に深く関わっていることを理解させる。また、腐敗も微生物の働きによっていることを理解させ、腐敗を防ぐための食品の保存方法についても考えさせる。
- ・微生物は医薬品を作ることに役立っていることや遺伝子組換えによりつくられる医薬品があること、ワクチンが病気の予防に役立っていることを学習させる。
- ・下水処理の仕組みを学習させ、下水処理には微生物の働きが関わっていることを理解させる。
- ・生態系での物質循環に微生物がどのように関わっているかを学習させる。

３ 単元と生徒

(1) 単元観

「２節 微生物とその利用」では、さまざまな微生物が私たちの身近な環境中にいて、人間生活に深く関連していることを気づかせることがねらいである。微生物は食品の腐敗の原因や病原体として人間生活に悪影響を与える面が注目されがちであるが、発酵食品や医薬品などで人間生活を豊かにしていることや、さらに生態系における微生物のはたらきや環境浄化への利用についても学習する。また、微生物が生物個体だけでなく、地球環境にも影響を与える存在であることを学習していく。中学校では、菌類、細菌類などを微生物ということ、微生物も呼吸を行い、生態系において分解者の役割を担うことを学習している。「２ 微生物の発見」では目に見えない微生物の発見と研究の歴史、当時考えられていた自然発生説を否定した実験について学習する。自然を観察し追求することで、既成概念を打ち破ることにつながり、科学技術の発展がもたらされてきたことを学習できる教材である。

(2) 生徒観

男子１２名、女子２３名の計３５名。普段の学習を含め、簿記検定など資格試験にも力を注ぐクラスである。新型コロナウイルスの影響により、班活動を伴う話し合いや実験をあまり行えていないため、自分の考えを述べる事や意見交換に慣れていない面がある。理科が得意な生徒は少なく、どうしてそうなるのか、などを考察し意見を述べることは得意ではないが、学ぶ意欲は高く、自分で重要だと思う事項をプリントに書き足しながら授業を聞く生徒も多い。プリントの空欄埋めや調べ学習なども積極的に行っている。

(3) 指導観 指導上の手立て

プリントの空欄埋めや調べ学習を中心に授業を行う。また、「どうしてそうなるのか」「どういうしくみになっているか」などを自分の言葉で説明できるようになってほしいので、自分の文章でまとめさせ、意見交換する機会を増やすよう工夫している。

「2 微生物の発見」の授業では、パスツールの実験映像を教師用のタブレットでスクリーンに投影する。なぜそのような実験方法を用いたのか、どうしてそのような結果になったのかを考察させることで、科学的な思考をもとに考察し、表現する力を身に付けさせることを目指す。

4 本校における「授業改善の課題」との関連性

学ぶ意欲を高め、深い学びへと導くための授業改善
～ICT機器の活用による主体性の涵養を目指して～

- ・前時の「1 いろいろな微生物」の授業の復習をFormsでの確認テストで行う。
- ・パスツールの実験の映像（NHK for School）をスクリーンに投影する。
- ・パスツールの実験についての考察を生徒タブレットを使用させて行わせる。

5 単元の指導計画

3章 生命の科学 2節 微生物とその利用 （9時間）

- | | | | |
|--------------|---------|-------------------|-----|
| (1) いろいろな微生物 | 1時間 | (5) 微生物と医薬品 | 1時間 |
| (2) 微生物の発見 | 1時間（本時） | (6) 微生物と水の浄化 | 2時間 |
| (3) 発酵と腐敗 | 1時間 | (7) 自然界における微生物の役割 | 2時間 |
| (4) 発酵の利用 | 1時間 | | |

6 単元の評価規準

A 関心・意欲・態度	B 思考・判断・表現	C 技能	D 知識・理解
・微生物の存在や生態系における役割について関心を持ち、意欲的に学習しようとする。 ・微生物と人間生活の関わりについて関心を持ち、意欲的に学習しようとする。	・微生物の存在や働きについて、実験を通して考察し、表現することができる。 ・微生物の発見など歴史的な事項についての学習を通し、科学的な思考をもとに考察し、表現することができる。	・身近な微生物、水の浄化に関わる微生物の観察や発酵における微生物の働きについての実験などを通して、観察・実験技能を身につけるとともに、結果や考察を的確に表現することができる。	・様々な微生物の存在や働き、生態系での役割について得た知識を、人間生活と関連づけて理解できる。

7 本時の計画

(1) 本時の目標

微生物の発見と研究の歴史を学習するとともに、自然発生説を否定したパスツールの実験について、なぜそのような実験方法を用いたのか、どうしてそのような結果になったのかを考察し、それを表現することができる。

(2) 学習過程

評価の観点

【A：関心・意欲・態度 B：思考・判断・表現 C：観察・実験の技能 D：知識・理解】

	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 10分	・ 前時の学習内容を確認する。 ・ 本時の目標を確認する。 ・ 微生物の発見と研究の歴史について学習する。 ・ パスツールの実験において結果と実験方法について考察する。	・ 前時の学習内容をClassroomのテストにより確認させる。	
展開 35分	・ 微生物の観察に必要な顕微鏡の改良から始まる微生物の発見と研究の歴史についてまとめる。 ・ 当時信じられていた自然発生説という考え方を知る。 ・ 自然発生説を否定したパスツールの実験方法について学習する。	・ プリントの空欄を埋めながら発見と研究の歴史についてまとめさせる。 ・ NHK for Schoolの映像を用い学習させる。	・ 積極的に取り組んでいる。(A)
整理 5分	・ 「パスツールの実験の結果について、どのような理由から起こったと考えられるか。」という問いについて考える。 ・ 「パスツールが口の部分をS字状に曲げたフラスコを用いた理由は何か。」という問いについて考える。	・ 問いに対し文章でまとめさせる。	・ 科学的な思考をもとに考察し、表現することができている。(B)

指導主事訪問協議会（理科）

日 時：令和4年10月27日（木）13：40～14：20

場 所：秋田市立秋田商業高等学校 語学室

司 会：河上 貴子 記録：伊藤 史織

1 はじめに

2 授業者より～授業について、協議題について～

- ICT機器を活用した授業展開ということで授業構成を考えた。ICTを使うことが目的にならず、有効に使えているかが大事だと思った。
- パワーポイントをスクリーンに映すところから一筋縄ではいかず、準備段階から多くの先生に助けもらった。今日は、生徒も頑張って発言してくれた。
- 最後は、意見が出やすい形ということでタブレットを使ってもらった。
- ICTを活用してみて、実験の映像があると生徒の食いつきも違うと感じた。しかし、トラブルがあることも他の授業ではあった。今まで問題を作問して解いてもらう授業も実施してみたが、文章題はまだ作れずプリントを使うしかないと感じている。
- 今回は、途中タブレットが起動中になってしまった生徒もいたので、今後の課題だと感じた。
- 今後に向けて、「こういう活用法がいいのでは」という意見があったら教えていただきたい。

3 参観者ワークショップ

- 表裏一体ではあるが、「プリントを使ってグループ内でシェアすること」と「オンラインを使って実施すること」では成果としてどのくらい違いがあるのだろう、と感じた。ただ、言葉を発しない生徒には有効かなとは思った。
- 最後のS字型について、「どうして」「なぜ」と思っていると思うので、時間がなかったとは思いますが、詳しく授業で扱っても良かったのではないかな。
- 生徒の手元もそうだが、机の上のスペースが限られているので難しい面もあると感じた。
- 場面によっては、フラッシュカードを貼るなどして生徒に授業の流れを見せることで、もっとよくなるのではないかな。
- スクリーンの文字が、後ろには見えにくいように感じた。
→対策として、Jamboardも授業に活用できる可能性があるように感じた。
- ウィルスと菌についてどのくらい生徒が知識を持っているか、が気になった。
- ICTを利用すると食いつきがいいが、生徒の一人一人の表情が見にくかった。
- 生徒が発信しやすい反面、生徒の声が聞こえにくかった。
- 生徒を待たせるタイムラグがなく、よかったが、生徒の入力した答えが見られる時間がもっとあると良かった。
- 正しい解答を画面か黒板で示しても良かったのでは・・・。
- 今回は実験的要素もあったと思うが、今後は全体の意見があった後に、グループ単位でやっても良かったのではないかな。意見交換ができるのではないかな、と感じた。
- 生徒が個人で入力した答えを見せるだけでなく、集約した意見があればいいと思った。
- スクリーンの説明をする際に、注目する場所がもう少しはっきり分かればよかった。
- 「深い学び」を考えると、生徒同士の意見の共有から、生徒同士の意見交換があってもよかった。

4 指導助言

<秋田県高校教育課 指導班 主任指導主事 伊藤 匡先生>

- 生徒との普段からの良好な関係を感じた。

-
- 研究授業は挑戦する場なので、ICTの活用に向け工夫して臨んでくれたいい時間だった。
 - 少し教えすぎかなと思った。やや教師の教える場面が多かったので、生徒が主役になる視点もヒントにして今後更に授業改善して欲しい。
 - これからは意識改革が非常に重要。兵庫県の辻先生の授業を紹介したい。ネット上で見られるので、ぜひご覧いただきたい。辻先生は1時間で3語しか話していない。主体的な授業の例としてぜひ見てみていただきたい。

<秋田市教育委員会 学校教育課 主席主査 指導主事 進藤 義明先生>

- 一過性のものを示すときにはパソコンで。ずっと残しておきたいときには、黒板に板書。拡大して見せたいときには、手元のタブレット。
- タブレットを使ってみんな同じことをするのは、一斉授業と同じである。子どもの思考がつながるようなタブレットの使い方をして欲しい。
- 「1人が1台使う」以外にも、「グループで1台使う」ということもできる。
話しながら各班がまとめ、「個から全体のまとめ」ではなく、「グループまでは今までと同じようにしながら、最後のまとめでタブレットを使う」という使い方もできる。研究を進めていって欲しい。
- もし自分がこの授業をやるなら・・・せっかくワクチンの話題があるので、年代ごとに並んでいるということが分かるようにするかな、と思った。そうすると時代背景が伝わって分かりやすいのかな、と感じた。

感想	研究協議会(理科)	改善点
理科の実験はスクリーンに映して視聴させることでわかりやすく興味深く、手が重宝がそせられると感じました。 実験の動画を観ることができて良かったです。 実験を実際にしなくても、映像を生徒に与えることで代替できるのは良い。	1班 本時のねらいが今ひとつ理解できなかった。 生徒の学習状況をどう評価するのか分からなかった。 なぜ実験IIIを行ったのかやS字にした理由など、生徒の発言があってもわかりやすかったように思います。	改善点

感想	研究協議会(理科)	改善点
classroomで前時の復習することによって短時間で復習ができていた。 書くだけでなく、打ってみんなの感想を知るといった動きがあるから飽きずにいい。 解答の一覧を共有できたのはよかった。	2班 実験の映像がわかりやすい NHKの映像が興味関心を引く 動画が生徒の理解を促す Forms入力することで一人ひとりにじっくり考える時間がある タブレットを利用することで、他人の意見に流されない 他との協議が必要な場面もあるかと Formの回答が見づらいかも	改善点 画面の大きさが限られているこのような環境においては、黒板の併用もあり

感想	研究協議会(理科)	改善点
「なぜ」を引き出す授業であった点がよかった。 ITを活用することで生徒が自分の考えを発表しやすくなったのは、生徒の自信にもつながっていると思う。 実験の映像がとてもわかりやすかった。真似したいと思った。 生徒たちの顔を見ながら説明でせとこが、板書では得られないメリットだと思った。 関心を引く映像が分かった。	3班 自分の記入文章について、はっきりとした正答を知りたいのではないかなと思った。 生徒の表情を見ながら... 「自分の意見を伝え、相手の意見を知る」で良い	改善点 前半部分(歴史)はもう少しコンパクトにしてもいいのでは

感想	研究協議会(理科)	改善点
クラスルームの使用で簡単に「分かりません！」が減る 同じ内容でもICTの利用で関心度が増す クラスルームに投稿することで、生徒も意見が出しやすい。 Formsで書くことによって、おとなしくて発言が難しい生徒も意見を述べる事が出来る Formsを使うと口頭で声に出すことができない状況でも意見を出せる 最後の理由をタブレットに書かせていたが、人前で発表するのが苦手な生徒も、自分の意見を書くことができた。 ICTを教員、生徒ともに使い方をマスターして活用していた。 ほぼ全員の生徒がタブレットを使いこなしており、活用していた。 授業の中で生徒の実際の声があってもいいのでは？ 自分の意見を述べた後に、意見交換することはできるのか。(疑問) スクリーンで示された他の人の意見に対してコメントする 微生機の身近な例は何を聞いても白くないのでは？	4班 各研究者についてまとめるところ：班を作って各生徒が担当する研究者を決め、ネット等で調べて班員同志で情報をシェアする自分と調べること何が必要事項が考えられるようになる 実際に話し合う場面も次の機会にあってもよいのではないかと。 グループで実際に話し合う機会を作る。	改善点

感想	研究協議会(理科)	改善点
写真や絵だけではわかりづらいことも、動画だと具体的に理解が深まる。 賛成であれば1人、2人の考えしか出ないが、みんなの考えを一瞬で共有できる。 理由を文章で述べる訓練になる。 生徒がタブレットに積極的に入力していた 発表と違い意見が出しやすい formsを利用することで全員の意見を共有できていた。 映像資料があることで生徒もイメージしやすかったと思う。 実験にできなくても、実験の流れが分かり、結果や理由について積極的に考えられていた。 器具の使い方ガイメジしやすい 意見の共有	5班 集まった意見が自分のタブレットで見られると良い 目が悪くて意見が一覧になったときに、どの意見に注目すれば良いかわからなかった。 深い学びのためには話し合いなどの場面があれば	改善点 Jamboardを使って班ごとに意見交換する

授業参観シートより

<生徒の様子について>

①本時の目標と授業の流れについて

- ・ ①本時の目標が明示されていた。②ほぼスムーズに行われていた。

②「なぜ」を引き出す発問について

- ・ 難しい発問ではあったが、生徒の考える力を引き出そうとしていた。

③生徒の主体的な学習活動について

- ・ クラス全体が教師の説明を聞きながら、空所補充に真摯に取り組んでいた。
- ・ 自分の意見を入力するため、主体的に考えていた。

④本時の目標に対する「振り返り」について

- ・ プリントにより、振り返りが行いやすくなっていた。

<ICT機器の活用について>

①本時の目標と授業の流れについて

- ・ 本時の目標が明示されていた。
- ・ 実際に実験をしていないのに実験を観ることができた。

②「なぜ」を引き出す発問について

- ・ 難しい発問ではあったが、生徒の考える力を引き出そうとしていた。

③生徒の主体的な学習活動について

- ・ ICTの利用により生徒の関心がより高まると感じました。
- ・ 生徒が答えを共有する場があればさらによかった。

④本時の目標に対する「振り返り」について

- ・ 振り返りにおいて、時系列の項目があればさらによかった。

【授業全体を通して感想や気付いたことなど】※「学ぶ意欲」や「深い学び」の工夫に注目して

- ・ ICTの利用により「生徒と先生がお互いの表情を見ながら」という指導の難しさを感じました。
- ・ ICTの活用に果敢に取り組まれていた。ペアワークやプレゼンテーションの場を設けることで、生徒が声を出す場面があればさらによかった。
- ・ 文章を打つという作業があるから、書くよりも新鮮で積極的に学ぶことができたと思う。

商業科（ビジネス情報管理）学習指導案

日 時：令和4年10月27日（木）4校時

対 象：3年E組（商業科）40名

教科書：ビジネス情報管理（実教出版）

授業者：須田 州逸・嶋田 平

1 単元（題材）名

第3章ビジネス情報システムの開発 第4節ビジネス情報システムの開発演習

2項 ウェブサーバを利用したシステムの開発 （5）ウェブプログラミングの基礎

2 単元（題材）の目標

3層クライアントサーバシステムの各層の役割と開発環境で使用されているソフトウェアの働きについて理解し、商品情報管理ウェブシステム開発の実習を通じて、ウェブプログラミングの基礎を身に付けさせる。

3 単元（題材）と生徒

(1) 単元（題材）観

ウェブサーバを利用した技術は、社会でも多く活用され、生徒自身も利用している技術の一つである。2年次では、HTMLでのホームページ作成やSQLの学習、3年次1学期では、MySQLを使ったデータベース実習を行っているが、それらを活用した3層クライアントサーバシステムといった仕組みについては、理解が難しい分野である。

この単元でウェブサーバを活用したシステムを学ぶことで、今まで学んだ知識を生かした統合的な技術を学ぶことになる。実習を通して、基本的なシステム構築について徐々に理解を深めさせていきたい。

(2) 生徒観

男子21名女子19名、計40名のクラスである。個人やグループでの取り組みなど落ち着いて取り組める、メリハリのあるクラスである。とくに実習においては、2年次から協働的・主体的に取り組むことができるため、個人で考える時間も設定した上で、実習やグループでの活動を効果的に設定していきたい。

(3) 指導観

3層クライアントサーバシステムやサーバサイドプログラミングなど、より専門的な内容で使用するソフトウェアも複数あり複雑になっている。今までの学びの知識や経験、身近な話題で興味や関心を持たせ、システムの簡単なイメージを持たせることを意識した説明をして、これから学習していく実習での取り組みを理解させたい。また、実習では、成功した体験から生徒の理解を深めることと、生徒一人一人が自分のペースを大事にしながら教え合いも交えて作成・修正等を行う実習や、多様な意見を共有しつつ合意形成を図る活動などを通して、生徒の主体性や意欲の向上に繋がるように指導していきたい。

4 本校における「授業改善の課題」との関連性

「学ぶ意欲を高め、深い学びへと導くための授業改善」
～ICT機器の活用による主体性の涵養を目指して～

- ・授業前後でのFormsによる生徒の意見や思考を活用、共有し、深い学びにつなげるようにする。
- ・評価においてもFormsのデータを活用する。

5 単元（題材）の指導計画〔22時間〕

第3章ビジネス情報システムの開発 第4節ビジネス情報システムの開発演習

2項 ウェブサーバを利用したシステムの開発

- (1) ウェブサーバを利用したシステムとは
- (2) 3層クライアントサーバシステムの開発環境 [1時間]
- (3) ウェブページ作成の基礎 [1時間]
- (4) データベース管理システム操作の基礎 [4時間]
- (5) ウェブプログラミングの基礎 [8時間] …本時1／8
- (6) 販売情報管理ウェブシステムの開発演習 [8時間]

6 単元の評価規準

A 関心・意欲・態度	B 思考・判断・表現	C 技能	D 知識・理解
情報システムの仕組みについて関心を持ち、開発実習に積極的・主体的に取り組もうとしている。	業務の特性を判断し、サーバを利用したWebアプリケーションの効果的な活用方法を思考し判断できる。	例題に従い、サーバを利用したWebアプリケーションのシステムを開発する技能を身に付けている。	情報システムの仕組みとシステム開発手順、使用するソフトウェアや各種プログラム言語の違いを理解している。

7 本時の指導計画

(1) 本時のねらい

- ・サーバサイドプログラムの実行方法を身に付け、サーバサイド技術の仕組みを理解する。

(2) 学習過程

	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 10分	・前時の復習をする ・本時の授業の流れを確認する	・問題を解き、解答結果を全体で確認しながら、復習をさせる	・3層クライアントサーバシステムの仕組みと使用するソフトウェアや各種プログラム言語の違いを理解している。 〔D：Forms〕
展開 35分	・PHP言語の基本的な構造を確認し、PHPファイルを作成する ・ファイルを実行する ・サーバサイドプログラムを実行する ・応用課題に取り組む	・作成したファイルの拡張子とアイコンの違いを確認し理解させる ・HTMLファイルを実行させてPHPファイルとは違う種類のファイルであることを確認し理解させる ・タスクが多くなるため、必要のないウィンドウは閉じること、プログラムの細かい入力確認を指示する	・サーバサイドプログラムの実行方法を身に付け、課題を完成させている。 〔C：データ提出〕
整理 5分	・サーバサイド技術の仕組みを確認する ・次時までの課題を説明する	・XAMPPを停止させてから終了するように確認する	

指導主事訪問協議会（商業科）

日 時：令和 4 年10月27日（木）13:40 ～ 14:20

場 所：秋田市立秋田商業高等学校 会議室

司 会：笠井 猛 記録：藤原 淳一

- 1 はじめに ・指導主事紹介（副校長より）
・協議会の流れについて（司会より）

- 2 授業者（須田州逸先生）より～授業について、協議題について～

〈協議題…学ぶ意欲の向上や深い学びへと導く、Google Formsを活用した授業改善について〉

- ・この授業はビジネス情報管理という教科であり、専門性の高い授業である。
- ・このクラスは情報コースであり、2年次にビジネス情報を3単位、プログラミングを4単位行っている。この授業はそれらの発展形ともいえるものである。
- ・本時はウェブシステムを学ぶ授業であったが、初めは生徒も分からないことが多いと思う。
- ・実習を含め、システムを作ることで少しずつ理解を深めていくようにしている。
- Google Formsも活用しながら、ウェブサーバのイメージを少しずつ深めさせるようにしている。
- ・授業の最初と最後にFormsを使って確認と振り返りをし、知識の定着を図った。
- Formsの正答率は半々であるが、結果を可視化できるのが非常によい点である。
- ・最後の課題は文章で今までやった知識を記入させるものであり、次回につなげたい。
- ・生徒の取り組みは皆協力的であり、協働ができていた。
- ・予定した応用課題に取り組む時間がとれず、進め方が悪かったかもしれない。

- 3 参観者ワークショップ

〈行い方〉

- ・参観した教員で授業のさらなる改善案についての協議
- ・参観シートや授業者の反省等を踏まえ、グループごとに（協議題）にそった改善案の検討
- ・K J法を使って意見をまとめ、1枚のボードに表し、最後に1グループずつ発表

～各グループで協議～

〈各グループからの発表〉※抜粋

◎1班

○感想

- ・新しい取り組みが随所にあり素晴らしい
- ・授業の難易度が高かったが、ほとんどの生徒が最後はできていた
- ・指示が行き渡っていたので素晴らしい

○改善点

- ・実用例について紹介があればよかった
- ・システムをイメージさせる方法があればよい
- ・「利益を獲得できる可能性」とあったが、それが一番気になる場所なので掘り下げてほしかった

◎2班

○感想

- ・盛りだくさんで、大変だったと思う
- ・時間を区切りながら作業させているのがよかった
- ・Google Formsを、初めの復習・知識定着と最後の感想・意見の吸い上げに使っているのがすごくよかった

○改善点

- ・何に活用できるのか具体的な説明がほしかった
- ・何でつまづいているのか、そこでどうしたらできるのか、という気づきを拾い上げたかった。

◎3班

○感想

- ・2年次からの継続があり、新しく学ぶことを明確に説明されていた
- ・理解度の確認にFormsを使用しており、ICTの活用がなされていた
- ・プリントで授業の内容の振り返りができるなど、学ぶ意欲が向上する手立てが充実していた

○改善点

- ・思考させる場面が少なかった
- ・知識を測る部分と思考を測る部分を分けた方がよかった

◎4班

○感想

- ・指導方法：指示が的確でよく通り、わかりやすかった
- ・設備：2つの大画面モニタ・後方モニタなど、教室設備を効果的に使っていた
- ・継続学習への取り組み：Google Forms活用で学習状況が把握でき、授業改善に生かせるのがよかった

○改善点

- ・時間の使い方：導入がやや長く、1時間の中に盛り込む内容としては多すぎたのではないか
- ・授業内容の説明：実生活・実社会と学習内容の結びつきを意識させたかった

◎5班

○感想

- ・生徒が意欲的に参加していた
- ・Google Formsの活用がスムーズで定着しているイメージを受けた
- ・授業内容の難しさはあるが、丁寧な説明が非常によかった

○改善点

- ・学習内容・活動のボリュームが多く50分でまとめることが厳しかったと思う

4 指導助言

〈秋田県総合教育センター 研修班指導主事 鈴木 紀子 先生〉

- ・協議題の「学ぶ意欲が高まる時」とはどのようなときか
→自分で疑問を持ってそれを解決でき、喜びを感じた時や自分の考えが認められたとき
- ・生徒が授業が終わったときどのような姿になっているか、が見通せるような授業を目指してほしい。
- ・生徒同士、生徒と教員の関係性は非常によかったが、生徒と教員のやりとりがあまりなかったのが残念だった。
- ・発問がやや足りなかった。生徒に思考させる部分は授業に必要。
- ・きっかけは小さいことでいい。本時の活動の中で、アイコンがエクスペローラーに変わらず、白いままだったところがあった。ここであれっ？という生徒の気づきがあったので、この時に生徒から帰ってきた反応を拾えればよかった。
- ・Formsの使い方は非常によく、前時の確認ができていた。
- ・振り返りの際、生徒それぞれの回答を比較できる時間がとれるとよかった。このような活動は深い学びにつながる。
- ・普段からこのような授業をやられているように見えた。今後とも研究を深め、授業改善に努めてほしい。

感想 研究協議会(商業) 改善点

1班

作業させて、一度失敗をさせ、再度何が間違っていたかを確認させて成功に導いていたことが良かった。

新しい試みが随所にあり素晴らしい。

学んだことは、紙に書くことで理解が深まると思う。生徒に何を書かせるのが大切だと感じた。

最後の場面ではPHPで入力したものがWEB上に表示される場面があったことで、1時間の学びが可視化され、納得できた。

教え合いが、自然とできているクラスであった。

htmlとphpの違いが難しく感じました。実習が進むにつれ理解が深まる部分なのか興味があります。

3層クライアントサーバシステムを「実践」解させるのが難しい。

クラス全体でパソコンの操作の指示と、指導内容の説明などをして、指図が行き渡っていたので感心しました。

フォームズへの回答は、閲覧する、共有する、ということでは非常に便利。

実際のweb予約の依頼プログラムなどで体験させる。

フォームズを使って文章入力させたが生徒は書き慣れていてペンで書くより、自由な意見をだしていると感じた。

前時の復習、導入にFormsを活用。

googleFormsを活用して、授業の始めの復習(知識の定着度合い)を図り、最後に生徒たちの本時の感想・意見を吸い上げるという取り組みがすごく良かったと思う。

予約等、したことがない生徒も多いのでは？システムをイメージさせる方法があればいい。

システムを構築することを目指すという目標、ではどう？と聞きそう。

プリントの3層クライアントサーバシステムを構築することを目指すという目標、ではどう？と聞きそう。

システムを構築することを目指すという目標、ではどう？と聞きそう。

2班

導入部分に時間がかりすぎた？

盛りだくさん過ぎた。

2. PHPファイルの実行の一度？二度？だったと思うのだから、イメージができたと思います。

何に活用できるのか、具体的に説明してくれたら、イメージができたと思います。

プリントとモニターをうまく活用。

生徒が落ちていて授業を遅らせている。

時間を区切りながら作業させていく。

3班

2年生で学んだことを新しく学ぶことを明確にする説明がされていた。

2年生の時、HTMLの基礎を学習しているのだから、導入は必要だったのでは？

本時を行う上で必要な知識をformsで行うことでより効率的かつわかりやすい。

問題を解いて、すぐに答え、間違えたところの分析をしつくり出していた。

フォームズを使うことで、理解度が分かる。

ICTの活用。

プリントの情報が多いため、絞ってほしい。

知識をはかる部分と思考を図る部分を分ける。

Forms: 記述式ではなく、単純な知識の確認でいいのでは。

書き進めたとし、でもワークシートの解説がわかりやすく立て直すことが容易。

高度な内容を分かりやすくプリントにまとめて進めていた。

授業の進め方とPHPの解説をPowerpointで丁寧に行っているため、流れが掴みやすかった。

プリントで分からない人の配慮。

学が意欲の向上の手立て。

4班

授業者が時間が無いと言っていたが、あの5分が50分でも良かった。

T1・T2の協力。

操作が中心で、生徒のやる気があった。

2つの大画面モニター、後方モニターが視覚的に効果があった。

教室設備を効果的に使っている。

Formsの活用によって学習状況が把握できる。授業改善に生かす。

指導方法

声がよく聞きやすい。

生徒の反応も確認しながら、授業を進めていた。

生徒同士で相談しながら作業を進める場面が見られた。

実習に取り組みするための具体的な説明に配慮があった。

実習に際して、的確に指示していたので、生徒はわかりやすかったと思う。

正解状況を見せる→生徒のやる気向上、自分の力の把握。

生徒の理解度や反応を、個別に即時性をもって確認できる点が良い。

授業内容の説明

システムが実際の企業でどのように活用されているか。事例の提示。

今回のシステムを構築する目的の提示。

流れのある全体図と、現在の学習の立ち位置を明示できれば、「サーバサイド」を少しは深く理解できたのではないか。

5班

Googleフォームの活用がスムーズで定着しているイメージを受けた。

ICTを活用することにより自分にダイレクトな反応があるため刺激があり、勉強したいと思った。

ICTの活用によって学習状況が把握できる。授業改善に生かす。

オンラインであつたため、生徒の活動をしつかりと見ることができなかった。

教室全体が見えなかった。スクリーン等。

学習内容・活動のボリュームが多すぎて50分でまとめるのが厳しかったと思う。

時間が使い方が入がやいやいやと感じた。

Formsの結果の説明。

あえて間違えを見せることで「なぜ間違いが出るのか」を考えさせる工夫があった。

生徒が意欲的に参加していた。

プリントと、パワーポイントをあわせて説明をしていた。

実習を流れ作業にせず、最初の段階で丁寧に説明をしていた。

授業参観シートより

<生徒の様子について>

①本時の目標と授業の流れについて

- ・生徒が授業に向かう姿勢ができていたと感じました。
- ・全体的に集中して取り組み、スムーズに進めていた。
- ・本時の目標が明確であり、授業も生徒の実態に合わせた流れになっていた。

②「なぜ」を引き出す発問について

- ・解説と作業が多く、生徒が自ら問いを立てる余裕がなかったのではないのでしょうか。
- ・実習の内容であったため、資料にその発問が記載されていた。
- ・問いに対して生徒自身でしっかりと考えていた。
- ・机間指導などを通して、生徒一人一人に合わせた声かけができていた。

③生徒の主体的な学習活動について

- ・生徒同士で相談しながら作業を進める場面が見られました。つまづいている生徒への個別のフォローが大変だと思いました。
- ・生徒の興味関心が高く、積極的に活動をしている生徒や、自主的に進んでいる生徒がいた。
- ・隣の生徒と相談し、自分の力で課題を作成しようと粘り強く取り組んでいた。

④本時の目標に対する「振り返り」について

- ・「仕組みの理解」まで至るには、内容が盛りだくさんすぎたかもしれないと感じました。
- ・コンピュータを扱うことから、トラブルシュートに時間をかけることの無いような準備が必要だと思った。
- ・実技科目では、生徒間の到達度の差が大きく、落ち着いた雰囲気では振り返りが出来ないことが多いが、そのような中でも生徒同士で話し合い、振り返りをしていた。

<ICT機器の活用について>

①本時の目標と授業の流れについて

- ・開始からしばらくの間、音声と画面が不安定で導入の詳細を確認できませんでした。
- ・前時の振り返りを正答率を確認しながら行っており、効率的かつ効果的であった。
- ・全体を通して、センターモニターで確認させながら進めていたのでよかった。
- ・ICT機器をどの場面で使用するのかを生徒に明確にすることも、授業の流れとして重要な情報になると感じた。

②「なぜ」を引き出す発問について

- ・おそらく生徒は作業の間中「なぜ」と思っていたはずですが、それを拾い上げるのが難しかったのではないのでしょうか。
- ・資料の行間を読む指導がなされており、実習の際には、生徒間、教師-生徒間において課題を解決する話し合いができていた。
- ・発問部分を色分けして、何を聞いているかを明確にしていた。

③生徒の主体的な学習活動について

- ・生徒と画面を共有することで、説明が分かりやすくなっていたと思います。
- ・生徒の興味関心が高く、積極的に活動をしていた。
- ・複数のデータを配付したため、生徒が自主的に進めるようにしていた。
- ・活用する目的をはっきりさせることで、機器に振り回されない学習活動に繋がると思った。

④本時の目標に対する「振り返り」について

- ・Google Formsの活用により、個別に即時性のあるフィードバックができるのは良いと思います。
- ・コンピュータを扱うことから、トラブルシュートに時間をかけることの無いような準備が必要だと思った。

【授業全体を通して感想や気付いたことなど】※「学ぶ意欲」や「深い学び」の工夫に注目して

- ・専門的な内容で、正直私の理解が追いついていませんでした。今回学習した内容が、実生活とどのように結びついているか具体例を挙げいただければイメージしやすかったと思います。お忙しい中、本当にお疲れ様でした。
- ・操作がメインとなってしまうため、なぜや主体的な活動がしづらい内容だったが、どこかでその場面を設定することができると良かったと感じた。
- ・独自教材資料に、生徒が主体的に考え、活動する内容が記載されていた。
- ・先生の指導がとてもきめ細やかであった。
- ・全体的に自主的に進めている生徒が多くいると感じました。説明も聞きながら自分の力で課題に取り組んでいたのも、普段の授業の雰囲気が伝わりました。ありがとうございました。
- ・参観したビジネス情報管理の授業は、情報コースの科目として専門性が高い。生徒同士で教え合う姿勢が見受けられたが、誰と話し合うかによって学びの深さが変わってくるため、机間指導の際には、より学びを深められるような支援が必要だと感じました。

指導主事訪問 全体協議会

日 時：令和4年10月27日（木）14:30～15:10
場 所：会議室

1 校長より指導主事の先生方の紹介

2 総評

〈秋田市教育委員会学校教育課 主席主査 指導主事 安田 しずか 先生〉

①本市学校教育の基本方針と本校の学校経営

今年3月に第4次となる「秋田市教育ビジョン」を改定し、本市教育の目指すべき新たな方向を示した。本ビジョンでは、これまで基本方針のキーワードである「自立と共生」を本市教育の理念として継承するとともに、学校教育においては、「志を持ち『徳・知・体』の調和がとれた子どもをはぐくむ教育の充実」を目標とし、時代を担う豊かな人間性を育てたい。「豊かな人間性の育成」、「確かな学力の育成」をはじめとする3つの重点項目を設定し、「危機管理上の留意点」と合わせて全ての学校に共通して取り組んでいただくことになっている。

瀧澤校長から学校経営について丁寧に説明をしていただき、その中でも一番に大切にしていることは「何よりも生徒のための学校でありたい」、「一人一人の生徒に真剣に向き合い、大切に育てていく」という意識を教職員全員が持つことである。そして基本的な生活習慣、次に授業、最後に部活動の考えを基に生徒の進路実現または自己実現に繋げていきたいという言葉が印象に残っている。全員が生活習慣・基礎学力を身につける、資格取得に挑戦し、進路実現に生かす。秋商スタダートを教育の根幹にして、ビジネス実践のさらなる充実やボランティア活動による地域貢献を実施していること。文武両道を目指し、部活動を通して協働性、向上心、忍耐力等を身につけ、豊かな人間形成の実現を図りたいと強い思いを感じた。

②学習指導と一般授業について

本校の学ぶ意欲を高め、深い学びへと導くための授業改善、ICT機器の活用による主体性の涵養を目指して研修テーマの実践に取り組まれている。秋田市立の小・中学校全ての児童・生徒に昨年度からタブレット端末が一人一台配布され、様々な学習形態でICTの活用が進んでいる。小学校1・2年生がアサガオの成長記録や町探検の学習で写真や動画を撮影したり、手書き入力で記録したりする場面が数多く見られるようになった。オンライン機能やアンケート機能も学習活動に取り入れている。小・中9年間のICTスキル体系表を基に発達の段階に応じて目標を明確にした取り組みをされている。

1年C組・E組で行われた情報処理の授業では東北6県の事故発生件数をグラフで表す、関数を必ず4つ使うこと、相手が見ることを意識することなど条件を示し、課題に取り組む生徒が印象的だった。また、タイピングの内容では全員に一定以上のスキルを身に付けさせる、次のステップに進むための動き作りがなされていると感じた。1年F組のビジネス基礎ではクラス全員がスクリーンに注目している姿や生徒の発言一つ一つに先生が応えていて雰囲気の良い授業を感じた。2年D組のマーケティングの授業では商品コンセプトを考えてみようという課題で「ライザップ」「ルンバ」などのターゲット、何が提供できるかなどをグループで話し合わせていた。順番としては①自分の考えを出す②グループで共有する③パソコン等を使って調べるといったようにすぐにパソコンで調べさせないように工夫していた。2年C組の数学Ⅱの授業は非常に楽しい様子で行われていた。クラス全体に問いかけながら問題を進めていく中で元気のいい男子生徒が何度も反応し、その度に先生が褒めるなどして認め、とても良かった。3年F組の現代文の授業では先生もグループワークに入り生徒に意見を出させ、グループ発表で出た意見に新たな見方や視点を加えて再びグループワークで話し合うなどエッセンスを増やして授業をコントロールすることで

生徒の学びが保たれていると感じた。

先生方が熱心に生徒に向き合う様子や生徒が集中して授業に取り組んでいる姿から生徒を大切にしている取り組みが見受けられた。

③秋田市教育委員会からの情報提供

本市では今年度、交通事故の発生件数が31件で内容については自転車走行中の不注意や飛び出しが多く、一歩間違えれば深刻なケースになりかねない。改めて通学路の交通事情、危険箇所を踏まえて安全確認の重要性について指導をお願いしたい。また、不審者事案の発生も35件あり、付きまといや児童生徒の進路を遮っての声かけなど大変危険な状況のものもある。事案の状況確認や二次被害の防止のためにも素早い情報共有が重要。事案が発生した際には、保護者または本人が即時警察に通報することが望ましいことや学校に速やかに報告することを引き続き指導して欲しい。さて、本校のホームページや新聞等で掲載されているAKISHOPやキッズビジネスタウンの取組を拝見した。生徒達が自ら主体的に考え、仲間と共に学び、地域に貢献したいと意欲溢れた生徒達の真剣な眼差や眩しい笑顔があり、これからの秋田の未来を担っていく姿に頼もしさを感じた。

〈秋田県高校教育課指導班 主任指導主事 伊藤 匡 先生〉

①学習環境

一般授業を参観したが、下を向いている生徒がいなかった。すべての生徒が先生の方を見て授業に臨んでおり大変良い状況だと思った。日頃の教科の指導や学校生活全般にあたっての姿勢が現れている。これは学校の力だと思った。教室も本校は古い校舎だが、教室の中は整然と掲示物等まとめられており、ゴミもほとんど無く清掃の状況も良かった。また情報処理系の授業やグループ間の授業では自信を持っている生徒が多いと感じた。一人一台タブレットを使った授業がいくつか見受けられた。本校はICT元年ということでそうした勢いのようなものも感じられた。

②授業改善・学習指導要領について

学習指導要領では看板・中軸になっている「主体的」「対話的」「深い学び」（頭文字をとってSTFと略す）。本校の研修テーマの副題にICTを活用した主体性の涵養が掲げられていた。やはり教師は主体的や主体性という言葉を伝統的につないできたと思う。学習指導要領では「主体的な学び」という表現で4つ載っている。①興味関心を持つこと②見通しを持つこと③粘り強く取り組むこと④自分の学びの振りかえりができること。この4つが学習指導要領でいう「主体的な学び」である。授業改善のヒントとしては、指導計画は授業のねらいを実現する設計図であるということ。高校は学びの時間が年間1000時間以上ある。その時間は指導要領を踏まえてしっかり準備してほしい。

授業を拝見して、全ての先生が熱心で生徒のためにという姿勢をもっていると思ったが、説明が多く、実技・専門科目も含めて教えすぎだなというのが共通で感じたことである。本校の課題になるのではないかな。STFを実現するには教師主導ではなく生徒が主役。教えすぎないことという意識改革が求められる。

観点別学習状況の調査は1年生では始まっているが、現状ではまだやりきれていない。新課程はこの評価に基づいた成績処理をすること。修正しながらでも良いので生徒の学力に適切な評価を。修正するときの注意点としては、生徒保護者に丁寧に変更点を説明することである。

③ICTの活用について

県立高校は令和2年度3月から始まっている。本校は遅れて入ったので活用はペースを上げて取り組んだ方がよい。やってみないと始まらない。まずはやってみることが大事。

一人一アカウントの時代。端末がなくてもアカウントがあればどこでも学習できる。クラウド上に2つ目の教室を確保すること。岡山県立林野高校のホームページを参考にしてみしてほしい。

「私は授業を持ち帰る」がキャッチフレーズ。

県は端末が入って新しい事業をスタートさせている。

1. すべての高校に対してデジタル教育を行う…情報Ⅰの新教科のウェブ上のアカウントを配布し、どこでも学べるようにする。すべての高校生にプログラミング教材「マイクロビット」を配布中。
2. 県内の高校にデジタル探究コースを設置…一人2台端末。プログラミング専用タブレット導入。

3 校長から

授業参観の感想を丁寧にお話しいただき、また課題等もわかりやすくご指導いただき感謝申し上げます。授業というのは、「これで良し」というものではなく常に改善が必要であり、そのたびにこのような研修があると思う。我々は生徒の学びの実現に向けて最大限努力する責任がある。授業が基本ということを全職員で確認し授業改善に努めていく。先生方からご指導いただいたことを次の課題として組織的に取り組み、生徒たちにとってよりよい授業、また授業を通してよりよい生徒指導につながるよう努力して参りたい。

年 間 実 施 報 告

研 修 部

1. 今年度の目標

- (1) 教職員の資質向上と生徒理解・指導に役立つ校内研修を実施する。
- (2) 指導力の向上と授業改善及び生徒理解のため、授業公開週間を実施する。
- (3) 校外研修の情報を提供し、参加を奨励する。

2. 今年度の重点的取り組み事項

◎校内研修は学校全体で取り組むことを前提とする。

- (1) 校内研修の円滑な実施
時勢に合った研修を提案し、課題について教員間の共通理解を図る。
- (2) 授業公開週間の推進
研修テーマと重点目標を設定し、アピール授業実施により活性化を図るとともに、参観者の掌握を徹底する。
- (3) 校外研修の奨励と研修者の掌握
適切な時期に適切な方法で案内し、研修参加者を一覧にして掌握する。

3. 今年度の研修テーマ

**学ぶ意欲を高め、深い学びへと導くための授業改善
～ICT機器の活用による主体性の涵養を目指して～**

4. 今年度の実施研修内容

☆：ICT推進委員会と連携

★保健・教育相談部と連携

時期	研修内容	対象	研修形態
4 / 4☆	① タブレット・書画カメラの使い方 ② 令和4年度からのネットワーク環境の把握	全職員	職員会議
4 / 13☆	① ZOOMを使って、各教室で全校集会をしよう。 ② Google Classroomの設定	全教員	ICT校内研修会
4 / 14☆	Google Classroomの使い方 2グループに分けて実施	全教員	ICT校内研修会
4 / 15☆	Google Formsを使った小テストの作り方 2グループに分けて実施	全教員	ICT校内研修会
4 / 21	『研修部の本棚』の開始	全職員	貸し出し
6 / 13～6 / 24	先行アピール授業	全職員	先行アピール授業
8 / 26	先行アピール授業について報告	全職員	職員会議
8 / 26★	救急救命講習	全職員	職員会議
9 / 14	『研修部の本棚』に書籍の追加	全職員	貸し出し
9 / 27	授業公開週間に向けて ①先行アピール授業について ②先行アピール授業映像 ③ICT機器を使った授業実践	全職員	職員会議
10/18～11 / 18	授業公開週間	全職員	アピール授業・授業参観
12/2, 12/27, 1/12☆	ICTおさらい会	希望者	ICT校内研修会
2 / 17	令和4年度研修部アンケート報告 中堅教諭等資質向上研修報告	全職員	職員会議
～年度末	ICT機器を活用した授業実践例を集録し、研修集録にまとめる	全職員	配付

授業公開週間 実施報告

研 修 部

I 趣 旨 お互いに授業を参観し合うことにより、指導力向上と授業改善を図るとともに、生徒理解に役立てる。

II テーマ 学ぶ意欲を高め、深い学びへと導くための授業改善
～ I C T機器の活用による主体性の涵養を目指して～

III 期 間 6月13日(月)～ 6月24日(金)
10月18日(火)～11月18日(金)

IV 授業するに当たっての重点的取り組み事項

- ①【本時の目標】を提示する。
- ②【授業の流れ】を明示する。
- ③ 生徒の「なぜ」を引き出す「発問」を工夫する。
- ④ 生徒が主体的に取り組む学習活動の場面や時間を設定する。
※ I C T機器の活用（グループ活動・教え合い・調べ学習・考察・発表など）
- ⑤【本時の目標】に対する「振り返り」をする。

V 実施方法

- (1) 期間中、各教科代表者1名以上が、アピール授業を行う。なお、商業科に関しては分野ごとの代表者1名以上がアピール授業を行う。
その際、最低1回は科会を開き、科全体で授業研究し、組織としてその授業に関わる。簡易指導案を作成し、参観者に配付する。
- (2) 期間中、全職員が自教科1時間以上、他教科1時間以上、計2時間以上（家庭科・芸術科は他教科2時間以上）の授業を参観する。
- (3) フリー参観形式。1時間内に複数の授業を参観してもよい。ただし、授業時間の半分（25分）は参観する。
- (4) 参観時には『授業参観シート（メモ用）』を持参し（1授業につき1枚）、Google Formsで回答する。

VI アピール授業（★は指導主事訪問時の研究授業と兼ねる）

国語科	戸澤 恵 先生：現代文B（3E）
地歴科	菅原 裕未先生：歴史総合（1D）
数学科	河上 貴子先生：数学Ⅰ（1E）
★理科	加茂谷糸恵先生：科学と人間生活（2A）
英語科	橘 克明 先生：英語表現Ⅱ（3BDF選択）
保健体育科	笠井 猛 先生：体育（1AB）
★商業科	須田 州逸先生（T1）・嶋田 平 先生（T2）：ビジネス情報管理（3E）

国語科学習指導案

授業者： 戸澤 恵

- 1 実施日時・場所： 11月10日（木）4校時 3E教室
- 2 実施科目： 現代文B
- 3 学年・クラス： 3E
- 4 単元名： 近代の小説『こころ』
- 5 本時のねらい： 「私」のこころの動きを追う
- 6 学習の流れ

学習活動（50分）	指導上の工夫・留意点	評価方法
・ 本時のねらいの確認 ・ 指名読み（前半） ・ 前時のプリントの確認（前半） ・ 指名読み（後半） ・ 前時のプリントの問題点について考える。 ・ 前時のプリントの確認（後半） ・ 本日たどり着いた「私」のこころを捉えさせる。	・ 「私」のこころがどう動くかに注視させる。 ・ 「K」の注目すべき点を意識させる。 ・ 短時間で次々と推移していく「私」のこころに注視させる。 ・ 本日の「私」のこころがたどり着いた感情の根拠を考えさせる。	・ 読み込む準備ができているか。 ・ たたみかけるように表現されているKの特徴を理解しているか。 ・ 「こころの推移」だけが書かれていることに気づいたか。 ・ キーワードがつかめたか。



授業参観シートより

<生徒の様子について>

①本時の目標と授業の流れについて

- ・目標が具体的に示されていたので、取り組むべきことを生徒はしっかりと理解していた。
- ・生徒がよく教員の指示に従っており、普段から授業のルールが共有されていると感じました。

②「なぜ」を引き出す発問について

- ・プリントを活用して考えるポイントがしぼられていました。文章や登場する人物の様子や心情がイメージしやすいような声かけが丁寧に行われており、生徒もよく考えている様子が伺えました。
- ・「こころ」における重要な小道具である「襖」について、重要な場面で登場することを生徒に気づかせられるとよりよかったと思います。
- ・なぜ彼はそう思ったのかという発問が、「なぜ」を引き出す発問にあたるなら良いと思います。

③生徒の主体的な学習活動について

- ・グループ学習の雰囲気がとても良かったと思います。落ち着きがあり、個人で思考しながら意見の交換もできている様子が見られました。ただ、このような学習形態について思うのは、自分で考えずに誰かの解答を書き写して終わる生徒が出てくるのではないかと思います。そのあたりに教師側がどう対応するか、いろいろ知恵を出し合って工夫できれば良いと思います。
- ・グループ活動においては、生徒同士の積極的な話し合いや、お互いに学び合う雰囲気が見られた。積極的に先生に質問する生徒も複数おり、戸澤先生の普段からの指導が行き届いている感じが見えた。
- ・グループ活動だったので生徒同士で主体的な学習活動をしていたと思います。
- ・戸澤先生の素晴らしいプリント！わかりやすいと思いました。

④本時の目標に対する「振り返り」について

- ・最後は新たなプリントを配付して取り組ませていましたが、「目標に対する振り返り」というよりは「『私』のこころの動きを追う」という目標に向かう内容のプリントだったように思います。生徒が自らの学習を振り返る機会も、単元の中で適宜設定していただければと思います。
- ・生徒は、プリントに丁寧に書き込むことで授業のまとめを行っていた。

<ICT機器の活用について>

①本時の目標と授業の流れについて

- ・板書を電子化することで、板書、確認のスピードが速くなり、有効に機能していたと思う。
- ・本時の目標に関するオリジナルのスライドが工夫されていた。授業のねらいである『「私」のこころの動きを追う』内容がわかりやすい内容となっていた。

②「なぜ」を引き出す発問について

- ・画面表示することで、生徒が考える時間がたくさん確保できたと思います。この授業では効果的な使い方だと思いました。

③生徒の主体的な学習活動について

- ・スクリーンに出力したものは見えづらいことも多く、字の大きさや色合いなど、作成には気を遣わないといけないと思った。

④本時の目標に対する「振り返り」について

- ・ICTの活用は、ふさわしい場面で使うことが重要だと思うので、活用ありきの授業作りは難しかったと思います。

【授業全体を通して感想や気付いたことなど】※「学ぶ意欲」や「深い学び」の工夫に注目して

- ・グループ活動の時間の机間指導で、戸澤先生が各グループや全体に対してこまやかに声をかけていた。生徒の気づきや深い学びに繋がり、生徒の思考を活発にさせる声かけであったと感じました。良い表現に教師側が気付かされることもあり、授業時には教師と生徒がお互いにコミュニケーションをとることの大切さに改めて気付かされました。
- ・単調な授業とならず、うまくグループで話し合う場面を創り、生徒主体の活動になっていたため、大変参考になりました。
- ・グループ学習の間に教師がどのような声かけをするか、生徒の学習にどこまで介入するかといった点については、学校全体で研修する機会があればと感じました。
- ・グループ活動で、司会を決める、発表者を決めるというアイデアが面白いと思いました。生徒によっては司会をすることを負担に感じる人もいるかもしれないが、今のうちに身につけておくと、社会に出てから、進学してから役に立つスキルだと思う。

地歴公民科学学習指導案

授業者： 菅原 裕未

1 実施日時・場所： 11月7日（月） 1年D組教室

2 実施科目： 歴史総合

3 学年・クラス： 1年D組

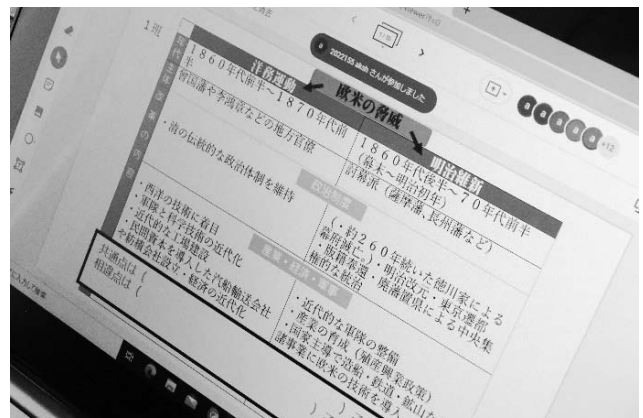
4 単元名： 東アジアの情勢と改革

5 本時のねらい： ①開港後の中国と日本の改革の相違点をまとめる

②幕末から明治維新にかけての日本の社会の変化を調べる

6 学習の流れ

学習活動（50分）	指導上の工夫・留意点	評価方法
・ 本時のねらいの確認（5分） ・ 新政府によって、具体的にどのような改革が行われたのか理解する（10分） ・ 4人グループでねらい①について話し合いタブレットにまとめを書き入れる（15分） ・ 4人グループでねらい②について錦絵からわかることを探して書き込む（15分） ・ まとめ（5分）	・ 富国強兵や殖産興業にかかわる改革に加え、中央集権の確立が課題となったことを指摘する。 ・ 洋務運動や明治維新は富国強兵や殖産興業を目標としたところで共通していた一方で、政治体制の改革を目指したかどうかといった点で相違していたことに留意させる。 ・ 近代化の動きは人々の生活面にも及んだことに注目させる。	・ 説明を理解しているか ・ 改革の違いに気づくことができたか ・ 明治の社会の変化に気づくことができたか



授業参観シートより

<生徒の様子について>

①本時の目標と授業の流れについて

- ・ 本時の目標にもとづいて授業が行われ、授業のねらいが明確だったので、生徒は作業の流れがスムーズだった。
- ・ 授業の流れについて…最後は時間が足りなくて残念だったが、もっと授業を受けていたいという生徒の様子が感じられました。
- ・ 指示が明確で目標や流れがわかりやすかったです。
- ・ スライドを用いて、スムーズに流れていて素晴らしいと思いました。

②生徒の主体的な学習活動について

- ・ 最後のイラストに関しての学習において、班でそれぞれ違うイラストについてコメントするので、「自分たちがやらなければこのイラストについての意見は出ない」状況になり、結果として主体的な学習活動になっていたと思う。
- ・ Jamboard上でグループで意見を出し合いながら考えを深め合っている様子が印象的でした。

<ICT機器の活用について>

①本時の目標と授業の流れについて

- ・ ICT機器を使いこなしていて、とてもすばらしいと思いました。
- ・ まったくタイムラグがなく、素晴らしい授業でした。

②「なぜ」を引き出す発問について

- ・ 確認問題の2.文明開化に関して、生徒たちは画像を見て、「どう違うのだろう？」や「どこが違うのだろう？」という新たな気づきや疑問が生まれていたように感じる。ICTの有効的な活用の仕方、上手な教材提示だったと思う。大変参考になりました。
- ・ イラストが多く使われたのは良かったと思います。

③生徒の主体的な学習活動について

- ・ Jamboardを活用することで、生徒たちは主体的・意欲的に取り組んでおり、学ぶ意欲を喚起することが出来ていたように感じる。
- ・ 班でそれぞれコメントした結果をクラス全体で共有するので、自分のやるべきことをやらないとクラス全体の学習に繋がらない状況になり、結果として主体的な学習活動になっていたと思う。
- ・ ほとんどの生徒がスムーズに端末を操作して参加できていたようだ。

④本時の目標に対する「振り返り」について

- ・ とてもうらやましいです。裕未先生のように使いこなせたら本当にいいだろうなと。

【授業全体を通して感想や気付いたことなど】※「学ぶ意欲」や「深い学び」の工夫に注目して

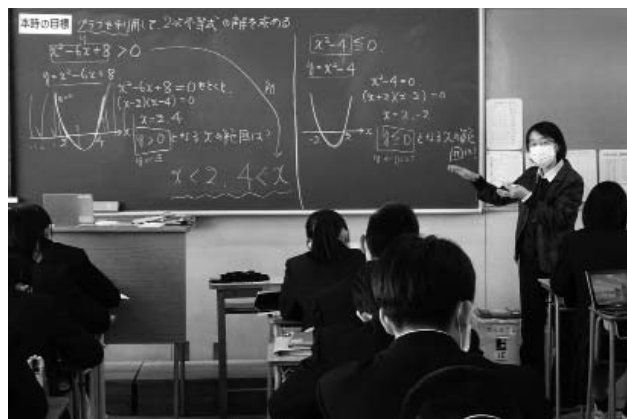
- ・ ICTを上手に活用していたので、生徒たちの学習意欲を高めることが出来ていたように感じた。生徒の意見を共有することで、深い学びにつながるのではないかと感じた。
- ・ ICT機器の活用法を知ることができました。Jamboardをこんな風に使うと、生徒の学ぶ意欲につながるということが分かりました。ありがとうございます。
- ・ この授業では同時代の中国と日本の歩みを比較して「共通点」と「相違点」を捉える、ということが主眼に置かれており、科目としての「見方・考え方」を働かせるのに最適な設定であると感じた。その意図を十分に反映させる授業展開になっていればよかったと感じた。また、できれば現代の中国を取り巻く（あるいは中国が生み出しているとも言える）国際情勢についても触れることができれば、生徒が生きる今に思いを巡らせ、学習内容が「自分ごと」として受け止められるのではなかろうか。
- ・ 班ごとに取り組む絵が異なっていて、他のグループの意見に対しても興味・関心が湧くような活動がなされていました。自分はまだまだICT機器を使えていないので、とても参考になりました。
- ・ 説明がわかりやすくて、生徒が真摯に取り組んでいる姿が心に残りました。
- ・ 意欲の高まりが感じられた。

数学科学習指導案

授業者：河上 貴子

- 1 実施日時・場所：11月18日（金）2校時 ・ 1E教室
- 2 実施科目：数学I
- 3 学年・クラス：1年E組
- 4 単元名：2次不等式
- 5 本時のねらい：関数のグラフを利用して、2次不等式が解けるようになる
- 6 学習の流れ

学習活動（50分）	指導上の工夫・留意点	評価方法
グラフを利用し、2次不等式の解き方を考える。（20分） グループに分かれて、練習問題に取り組む。お互いに質問したり、説明したりしながら、協力して全ての問題を解く。（20分） 目標が達成できたか、自分がまだできないことは何かを振り返る。（10分）	目標を示し、2次不等式の解き方を考えさせる。 グループになるように指示する。 全員の共通認識の下で学習を行えるように、グループになったときのルールを確認し問題演習に取り組ませる。 ＜ルール＞①まず自分で考える。 ②分からなかったら、グループの人に質問する。③質問された人は、説明する。 指名して、答え合わせをする。 振り返りをさせる。	2次不等式を解くことができる。 (知識・技能) 2次不等式を解くときに、図を積極的に利用する。(主体的に学習に取り組む態度)



授業参観シートより

<生徒の様子について>

①本時の目標と授業の流れについて

- ・スクリーンや板書をうまく活用しながら進めていた。
- ・2次不等式の解法をパソコンにより視覚で確認し不等式で表していた。

②「なぜ」を引き出す発問について

- ・アプリを使い、様々なグラフを確認をさせていた。
- ・呼名しながら、質問していた。生徒の自発的な意見も見られた。

③生徒の主体的な学習活動について

- ・グループ活動にしたことで周囲と進捗を確認しながら進めていた。
- ・パソコンで教科書のQRコードを読み取らせて、各自、自分の進度に合わせて学習していた。グループ学習により、意見交流もしていた。

④本時の目標に対する「振り返り」について

- ・後半の答え合わせの時間が足りない。

<ICT機器の活用について>

①本時の目標と授業の流れについて

- ・全体を通して、スクリーンだけを使って進めていなかったもので、効率がよいと感じた。
- ・黒板とスクリーンを使い分けて、授業ができていたと思いました。
- ・QRコードをパソコンに読みとれない生徒がいた。

②「なぜ」を引き出す発問について

- ・グラフのアプリで確認しながらできていたので、色々な関数を確認できていた。
- ・生徒を指名していた。自分から意見を述べていた生徒がいた。

③生徒の主体的な学習活動について

- ・周囲とグラフや関数を確認し、共有しながらできていた。
- ・補助教材のヒントを活用しながら主体的に問題を解くことができていました。これが知識の定着に繋がるようにする活用方法を考えたいと思いました。
- ・授業と並行して効果的な機器の使用でした。

④本時の目標に対する「振り返り」について

- ・生徒が簡単に理解度や感想を入力でき、教員もその結果を知ることができるためプリントよりも便利だと思いました。
- ・生徒にこの問題に関して機器を操作するような問題を与えたらどうか。

【授業全体を通して感想や気付いたことなど】※「学ぶ意欲」や「深い学び」の工夫に注目して

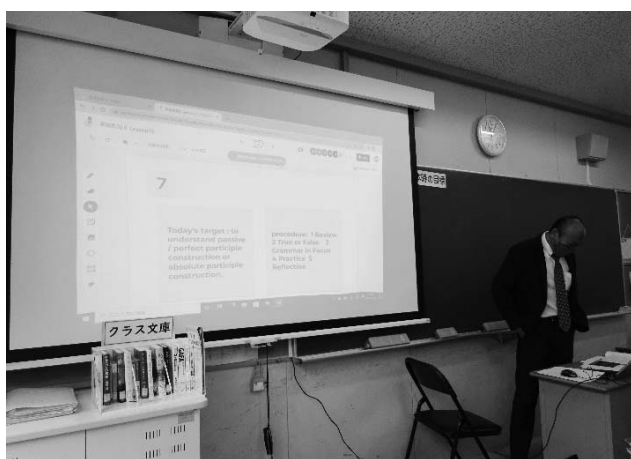
- ・生徒の自主性を伸ばすような授業の雰囲気だったので、生徒が受けやすそうだなと感じました。
- ・最初から最後まで観ることができなかったため、すべてに答えることができませんでしたが、最後に生徒が「もう授業終わった。集中すると時間が過ぎるの早いなあ」と言っていたことが全てを物語っていると思いました。
- ・2次不等式の解の求め方をグラフを利用して解くことの発展につながるとよい。

英語科学習指導案

授業者： 橘 克明

- 1 実施日時・場所： 11月16日（水）3校時 3F 教室
- 2 実施科目： 英語表現Ⅱ
- 3 学年・クラス： 3BDF
- 4 単元名： Having Never Been to Okinawa
- 5 本時のねらい： 分詞構文を理解する
- 6 学習の流れ

学習活動（50分）	指導上の工夫・留意点	評価方法
・ 本時のねらいの確認 ・ 復習（Model dialogue を聞いて読む） ・ True or False ・ Grammar in Focus ・ Practice ・ 振り返り	・ 本時のねらいを理解するように日本語でも板書する ・ 声を出すように促す ・ 最初は音声のみで、次は英文を与えて答えさせる ・ 前時の分詞構文の説明を生徒が理解しているか確認して、A. 1. は教師が、以降は生徒が説明をする ・ JamboardだけでなくSpreadsheetsも使い時間をうまく使う。 ・ Reflection sheetを使って振り返りをさせる	・ 理解し準備ができているか ・ 声を出しているか ・ 質問を理解して正解できるか ・ 分詞構文の作り方を理解しているか ・ 分詞構文を書いたり言ったりできるか ・ 自己評価



授業参観シートより

<生徒の様子について>

①本時の目標と授業の流れについて

- ・目標を英語で提示されていましたが、文法用語は生徒が理解するには難しいので（また、覚える必要もないので）日本語で提示した方がいいのではと思います。後から日本語で目標を黒板に書き直していらっしまったので、それは二度手間かと思うので。
- ・文法用語なども英語で書かれていたが、生徒は慣れているようだった。

②「なぜ」を引き出す発問について

- ・文法の規則を気づかせようとしていた。

③生徒の主体的な学習活動について

- ・教師の言うことを理解して、真摯に取り組んでいた。

④本時の目標に対する「振り返り」について

- ・ポイントを振り返っていた。

<ICT機器の活用について>

①本時の目標と授業の流れについて

- ・本時の目標は、文法事項であれば日本語でもいいのではないかと思います。
- ・目標をスクリーンで提示する場合、日本語で簡潔に大きく（文字のフォントを変えるなどして）提示してみると分かりやすいかと思います。
- ・初めてのICTの有効活用が、ほぼスムーズに行われていた。

②「なぜ」を引き出す発問について

- ・ICTを使って何人かの生徒の解答を比較しながら、「なぜ」を引き出していた。

③生徒の主体的な学習活動について

- ・タブレットへの入力等は、スムーズにできているように見えました。
- ・DeepLやWeblioを使っていた生徒もいましたが、教科書の1文だけの英作文においては、学習したことを踏まえて自分で考えさせる方が力がつくと思います。DeepLは、ある程度まとまったオリジナルの英作文を書く際、「これは英語でなんて表現するんだろう？」という疑問をもった時に使うのが有効だと思います。
- ・スムーズに活動を行っていた。

④本時の目標に対する「振り返り」について

- ・何人かの解答を比較しながら振り返りが行われていた。

【授業全体を通して感想や気付いたことなど】※「学ぶ意欲」や「深い学び」の工夫に注目して

- ・今日の授業を見て、自由英作文の際に生徒の解答をJamboardを使って共有したら面白いと感じました。今日の授業は実験的な取り組みだったと思いますが、1時間の中で答え合わせできる問題数的には少ないのではないかと思います。
- ・生徒がICT機器とアナログな自分のノートを併用して使っているのが印象的でした。
- ・授業時間を通じて、クラス全体の生徒の意欲が感じられた。

保健体育科学習指導案

授業者： 笠井 猛

- 1 実施日時・場所： 11月16日（水）1校時 体育館（用具室側）
- 2 実施科目： 体 育
- 3 学年・クラス： 1AB
- 4 単元名： 選択球技（ネット型競技のうちのバドミントン）
- 5 本時のねらい： ダブルスにおける戦術的フォーメーションを実践する
- 6 学習の流れ

学習活動（50分）	指導上の工夫・留意点	評価方法
・挨拶・出欠確認（2分） ・ランニング（3分） ・本時のねらいの確認（10分） ・5点先取のミニゲーム（30分） ・振り返り（5分） ・挨拶	・「戦術的フォーメーション」を永原和可那、松本麻佑（北都銀行）、志田千陽（八郎潟町出身）、松山奈末（再春館製薬）ペアの国際大会の映像を見せる。 ・ペアでコミュニケーションをとり、前衛、後衛の入れ替わりが出来るように動かす	・「前後のフォーメーション」を理解しているか。 ・「前後のフォーメーション」を実践できているか。 ・ペア間でコミュニケーションが取れているか。



授業参観シートより

<生徒の様子について>

①本時の目標と授業の流れについて

- ・いきなり実技ではなく、ビックパッドを用いた講義を挟んでから実技に入ることによって生徒が意識を高く持って取り組んでいた。
- ・本時の目標の実現に向けて努力する様子が見てとれた。

②「なぜ」を引き出す発問について

- ・私が見たところでは発問はなかったが、フォーメーションをよりよく戦術に生かすためにどのようにしたら良いかを考えている様子だった。
- ・トップアスリーの試合風景動画を用いながらフォーメーションについて説明があり、生徒がなぜそうなるのか、自分たちのプレーに取り入れるにはどうしたらよいか考えている様子が見て取れた。

③生徒の主体的な学習活動について

- ・講義で学んだことや先生のアドバイスを元に競技力向上のため意欲的に取り組んでいた。
- ・ゲームなど、生徒が主体的に運営できていた。

④本時の目標に対する「振り返り」について

- ・生徒どうしで話し合いながら本時の振り返りをする様子があった。

<ICT機器の活用について>

①本時の目標と授業の流れについて

- ・生徒の技術的理解が深まるよう、ビックパッドを使用していることが参考になった。
- ・授業の冒頭で動画による説明を行っており、活用ができていた。

②「なぜ」を引き出す発問について

- ・ビックパッドを用いてプロ選手の映像を見せ、上手くなるためにどのようにしたら良いかを引き出していた。
- ・トップアスリーの試合風景動画を用いながらフォーメーションについて説明があり、生徒がなぜそうなるのか、自分たちのプレーに取り入れるにはどうしたらよいか考えている様子が見て取れた。

③生徒の主体的な学習活動について

- ・実際の映像を見せた後なこともあり、プロ選手の技術に近づこうと努力する姿が見えた。
- ・主体的な活動にICT機器は用いられていなかった。

④本時の目標に対する「振り返り」について

- ・振り返りについてICT機器は用いられていなかった。

【授業全体を通して感想や気付いたことなど】※「学ぶ意欲」や「深い学び」の工夫に注目して

- ・教師生徒とも、楽しそうに授業に取り組んでいたのが印象的でした。楽しい授業を行うことは私にとっての課題の1つなのでとても参考になりました。また、映像を活用し、普段見ることの少ないプロ選手のプレーを見ることで生徒の興味を深め、実技を行うことにより、深い学びを与えられていたと感じました。参観させていただきありがとうございました。
- ・バドミントンの技術到達目標が明確になっている授業であった。
- ・トップアスリーの試合映像を参考にし、生徒が自らの技能を向上させていこうと積極的に取り組む姿が見られ、意欲の高まりが感じられた。

授業公開週間 授業紹介

研修部

<授業実践1>

教科名（科目名）	商 業 （ビジネス経済）
授業者名	千葉 知美
ICT 機器の活用場面・活用の仕方	・ 調べ学習 ・ グループ学習（Jamboardの活用）

参観者いただいた先生方の声

<ICT機器の活用について>良かったと思う点・自分の授業にも取り入れようと思う点

- ・ Jamboardについて、なんとなく分かりました。ありがとうございます。
- ・ スライドで説明資料を提示すれば、生徒全員が着目しやすい。
- ・ Jamboardは、どの生徒も自分の考えを呈示するので、発表もしやすい。
- ・ 千葉先生のスムーズな進行に、普段から使い慣れていると感じた。



<授業実践2>

教科名（科目名）	商 業 （簿 記）
授業者名	須田 州逸
ICT 機器の活用場面・活用の仕方	Jamboardの活用

参観者いただいた先生方の声

＜ICT機器の活用について＞良かったと思う点・自分の授業にも取り入れようと思う点

- ・ Google Jamboardの活用 生徒から意見を集めること、それを容易に共有することができるところがとても参考になった。
- ・ ジャムボードを活用した協働学習
- ・ 導入段階でJamboardを利用して、生徒たちの興味関心を視覚的に惹きつける工夫は取り入れてみようと思った。
- ・ Jamboardを使っでの分類：生徒にとってイメージがつかみやすい
- ・ 各グループでまとめた考えをスクリーンに映して全体で共有する活動
- ・ 簿記の授業では問題演習のイメージが強かったが、グループで話し合ったり他者の考えを共有することでなぜそのような処理をするか生徒が主体的に考えるきっかけになると思った。取引のイメージを持たせるために是非取り入れていきたい。
- ・ ジャムボード。歴史の授業でもさまざまな事象を分類・比較するときに座標軸として使えそうだと思います。確認テストとしてフォームを使用しているのも、自宅でも振り返りが可能になるので良かったと思います。



I C T 機器を使った授業実践例

研 修 部

教科名（科目名）	商業（簿記・財務会計Ⅰ・原価計算）
授 業 者 名	石田 雄哉
I C T の 活 用 場 面 ・ 活 用 の 仕 方	・ 工業簿記の基本的な解き方を、解説動画として撮影(実物投影機)し、Googleドライブに保存しておく（20分で1.2GB程度） ※画像の圧縮 元データ AVI形式 → MP4形式 205教室のAdobePremiereで変換 ・ Classroomから資料として動画を添付して提供し、生徒にはプリントを配付。各自で好きな時間に取り組む。 ※容量が1GB以上あるので、Wi-Fi環境が必須だと伝えている。
生 徒 の 反 応	・ 繰り返し見たり、止めて見たりできるので、復習はしやすい ・ 黒板や生の説明より落ち着いて見ることができる（止められるため）
授 業 者 の 感 想	・ 意欲的な生徒はどんどん進めているが、そうでない生徒には敷居が高い。

解説動画の一部

The image shows a hand pointing to a printed document with handwritten calculations. The document contains tables for material and labor costs, and a calculator shows the number 498960.

Table 1: Material Costs

	投入合計	当月完成品	月末仕掛品	産出合計
投入合計	4,000kg	3,760kg	240kg (2/3)	4,000kg
当月完成品	3,200kg	2,880kg	320kg (1/2)	3,200kg

Table 2: Labor Costs

	工	工費
工	2,760 4,771.60	320 2,880
工費	(1,760) (1,011.60)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60

Table 3: Labor Costs

	工	工費
工	2,760 4,771.60	320 2,880
工費	(1,760) (1,011.60)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60

Table 4: Labor Costs

	工	工費
工	2,760 4,771.60	320 2,880
工費	(1,760) (1,011.60)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60

Table 5: Labor Costs

	工	工費
工	2,760 4,771.60	320 2,880
工費	(1,760) (1,011.60)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60

Table 6: Labor Costs

	工	工費
工	2,760 4,771.60	320 2,880
工費	(1,760) (1,011.60)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60

Table 7: Labor Costs

	工	工費
工	2,760 4,771.60	320 2,880
工費	(1,760) (1,011.60)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60

Table 8: Labor Costs

	工	工費
工	2,760 4,771.60	320 2,880
工費	(1,760) (1,011.60)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60

Table 9: Labor Costs

	工	工費
工	2,760 4,771.60	320 2,880
工費	(1,760) (1,011.60)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60

Table 10: Labor Costs

	工	工費
工	2,760 4,771.60	320 2,880
工費	(1,760) (1,011.60)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60

Table 11: Labor Costs

	工	工費
工	2,760 4,771.60	320 2,880
工費	(1,760) (1,011.60)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60

Table 12: Labor Costs

	工	工費
工	2,760 4,771.60	320 2,880
工費	(1,760) (1,011.60)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60

Table 13: Labor Costs

	工	工費
工	2,760 4,771.60	320 2,880
工費	(1,760) (1,011.60)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60

Table 14: Labor Costs

	工	工費
工	2,760 4,771.60	320 2,880
工費	(1,760) (1,011.60)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60

Table 15: Labor Costs

	工	工費
工	2,760 4,771.60	320 2,880
工費	(1,760) (1,011.60)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60

Table 16: Labor Costs

	工	工費
工	2,760 4,771.60	320 2,880
工費	(1,760) (1,011.60)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60

Table 17: Labor Costs

	工	工費
工	2,760 4,771.60	320 2,880
工費	(1,760) (1,011.60)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60

Table 18: Labor Costs

	工	工費
工	2,760 4,771.60	320 2,880
工費	(1,760) (1,011.60)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60

Table 19: Labor Costs

	工	工費
工	2,760 4,771.60	320 2,880
工費	(1,760) (1,011.60)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60

Table 20: Labor Costs

	工	工費
工	2,760 4,771.60	320 2,880
工費	(1,760) (1,011.60)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60

Table 21: Labor Costs

	工	工費
工	2,760 4,771.60	320 2,880
工費	(1,760) (1,011.60)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60

Table 22: Labor Costs

	工	工費
工	2,760 4,771.60	320 2,880
工費	(1,760) (1,011.60)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60

Table 23: Labor Costs

	工	工費
工	2,760 4,771.60	320 2,880
工費	(1,760) (1,011.60)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.60	320 2,880
工費	(1,011.60) (2,880)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60

Table 24: Labor Costs

	工	工費
工	2,760 4,771.60	320 2,880
工費	(1,760) (1,011.60)	(1,011.60) (2,880)
工費	4,771.60	3,891.60
工費	240 1,011.6	

教科名（科目名）	商業（ビジネス基礎）
授 業 者 名	石田 雄哉
I C T の活用場面・活用の仕方	・生徒各自で教科書等を元にしながらか小テストをGoogle Formsで作成させる。 ・作成したFormsのリンクを取得し、クラスが共有できるスプレッドシートを用意し、そこにリンクを貼り付ける。 ・生徒はお互いに好きなリンクをたどって、いろいろな小テストで理解と記憶を定着できる。
生 徒 の 反 応	・面白がって取り組んでいた。
授 業 者 の 感 想	・生徒の作問のレベル、正確さを確認できないため、適切な小テストになっていない可能性がある。 ・Googleの機能を使わせる効果はあると思う。 ・教師の作問の手間が減り、数多くの問題が作成できる。

教科名（科目名）	総合的な探究の時間
授 業 者 名	石田 雄哉
I C T の活用場面・活用の仕方	・使用したい複数のクラスで教師用タブレットとスクリーンを接続する。 ・Google Meetで各教室をつなぐ。 ・Googleスライドやパワーポイントの画面を共有（ウィンドウの共有）し、各教室にスライド画面を配信。 ・スライドを配信する元の教師機のみマイクをオンにすれば、スライドを操作しながら説明・指示を配信できる。 ※オンライン部屋等の別室でなくても、A組の教室から他のクラスへ配信できる。
生 徒 の 反 応	
授 業 者 の 感 想	・他の教室にいても、同じ説明を届けられることができる。 ・LHRや総合探究で使えるのではないかな。

教科名（科目名）	地理歴史（歴史総合）
授 業 者 名	菅原 裕未
I C T の 活 用 場 面 ・ 活 用 の 仕 方	①書画CAM Proの絵画モードの活用。 地図をインポートし、書き込みをする。その様子をスクリーンに表示する。 タッチペンが必須。 ②Google Earth（バーチャル地球儀）で地形や文化遺産の確認をする。
生 徒 の 反 応	①スクリーンを見て、配布された地図（プリント）に教師と同じように書き込みをしようとしている。 ②生徒たちは興味関心を持って見ている。世界中どこでも3Dで俯瞰できることに感動している。 ※スクリーンは廊下側前列の生徒は見づらそうである。
授 業 者 の 感 想	①黒板に地図を書く手間が省ける。矢印や丸印などが一瞬で書けるため時短になる。 ②生徒に臨場感のある資料を提示できる。効果的にGoogle Earthを見せることができれば生徒の興味関心を引き出すことができると思う。

教科名（科目名）	数学（選択C／数学B）
授 業 者 名	伊藤 史織
I C T の 活 用 場 面 ・ 活 用 の 仕 方	書画CAM Proの絵画モードの活用 教科書をインポートしスクリーンに表示し、ベクトルの平行移動を示すことでベクトルの演算について解説する。
生 徒 の 反 応	ベクトルを実際に平行移動させて考える様子を実際に見たことで、「1つのベクトルの終点にもう1つのベクトルの始点を平行移動で一致させて考えること」が理解できた。
授 業 者 の 感 想	・黒板に図を描く手間がいらず、時短になる。 ・別解の図示も簡単に示すことができる。 ・ベクトルの演算を実際に動きで見せることが可能になるため、理解の深化につながる。 ※書画CAM Proの倍率を上げるだけでは足りない場合は、プロジェクターもズームで拡大することで見やすくすることができた。

教科名（科目名）	総合的な探究の時間（AKISHOP）
授 業 者 名	菅原 裕未・伊藤 史織
I C T の 活 用 場 面 ・ 活 用 の 仕 方	Google Classroomの活用 - グループごとの商品開発の企画書を投稿。 →指導後、再投稿させる。 - 今後の流れや商品名を全員が確認できるように投稿する。 Google Formsの活用 - 試作品ごとに試食アンケートに回答してもらう。
生 徒 の 反 応	- 他のグループの企画書を見比べて考えていた。 - 試食アンケートに回答しやすいようだった。
授 業 者 の 感 想	- 他のグループの企画書を必要に応じて見られることで、企画書の内容の向上につなげることも可能だと思った。 - 試食アンケートはFormsを使うことで、挙手制に比べ生徒が自分の意見を述べやすいように感じた。また、紙への記入と異なり、教員の負担も少ないと感じた。 205教室の使用可能席数は限られているが、Google Classroomを活用することで教室と205教室双方で情報を共有でき、便利だと思った。

教科名（科目名）	数学（数学Ⅰ）
授 業 者 名	伊藤 史織
I C T の 活 用 場 面 ・ 活 用 の 仕 方	① Google Classroom →pdfの配信、Formsの配信、生徒の解答の投稿による共有など ② Google Forms →数研Studyaid D.B.で作問しpdfにした問題と併用し、小テストの配信と解答の確認に利用 ③ 数研出版デジタルコンテンツ →「自分で関数を変化させることにより、グラフの平行移動と関数の関係について実感させる」、「因数分解や展開の公式をドリル形式で確認する」、など
生 徒 の 反 応	2次関数のグラフの平行移動は最も反応が良く、数学的な性質に自ら気付けた生徒が多かった。ドリル形式もゲーム感覚で、自分の理解に応じて取り組んでいた。
授 業 者 の 感 想	① 欠席者にも送れるため、指示や解答が共有できる。 ② 採点の手間が省略できる。しかし、数式を入力するのは困難であるため、記述式で入力させるのは難しいなど課題はある。適切な場面であれば、効果的である。 ③ 自分で数学的な事象を確認できるため、生徒の反応は非常に良かった。ドリル形式も自分の到達度によって制限時間が選べ、正誤判定されるのでゲーム感覚で取り組んでいた。

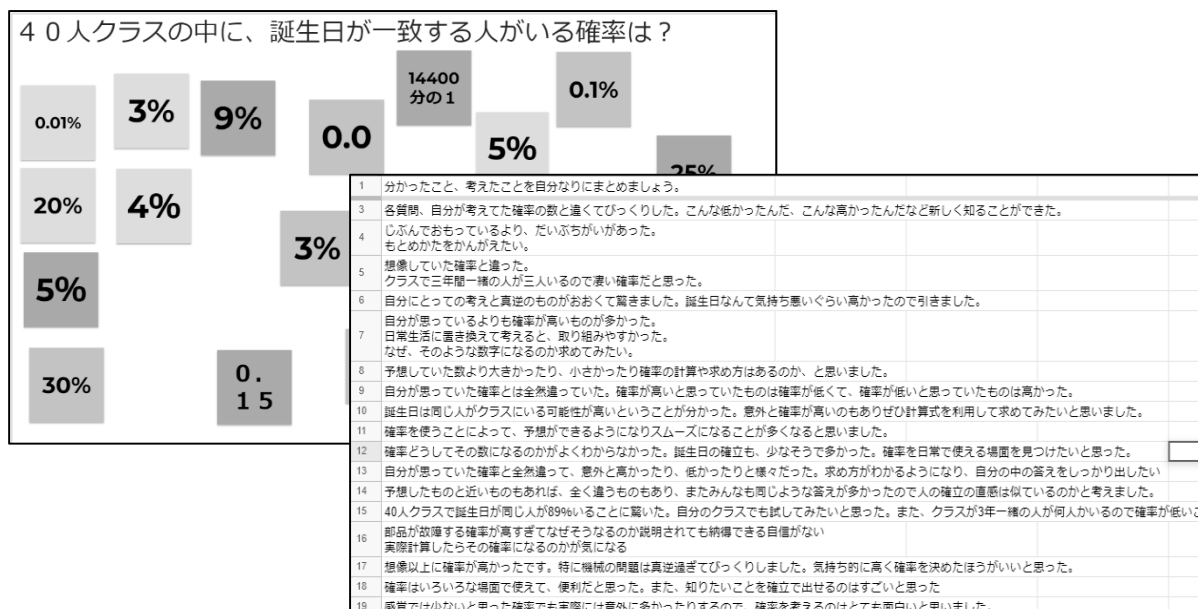
Google Forms・Classroomの活用風景 （画像は小テストの場面）



数研デジタルコンテンツの活用 （画像は2次関数のグラフの平行移動の場面）



教科名（科目名）	数学（選択A・数学A）
授 業 者 名	伊藤 史織
I C T の 活 用 場 面 ・ 活 用 の 仕 方	「確率を学ぶ意味を考える」をねらいとし、以下の流れで行った。 ① 身近な事象の確率を予想させ、Jamboardに入力させる。 ② 予想と、実際に計算した結果が異なることを知る。 ③ 感じたことをGoogle Formsにまとめる。 ④ スプレッドシートにし、Classroomに感想の部分を投稿し、全体で共有した。
生 徒 の 反 応	① Jamboardで入力させたことで、各自が予想を素直に表現できていた。 ② 自分たちの予想と、計算で求まる確率の値が離れていることに驚いていた。 ③ 教師が提示しなくとも、「確率を学ぶ意味」や「確率を考える楽しさ」を感じてくれた生徒が多かった。 ④ 他の生徒の考えを知ることで、「学ぶ意味」についてより感じる事ができた。
授 業 者 の 感 想	全体授業では発言しにくい生徒も、ICTを活用することによって自分の考えを伝えやすいと感じた。また、ただ教員から言われるままに学ぶよりも、主体的に学ぶ意味を感じたり、「自分で確率を求めてみたい」という生徒が多かったので、今後もこのような機会を増やしていきたい。

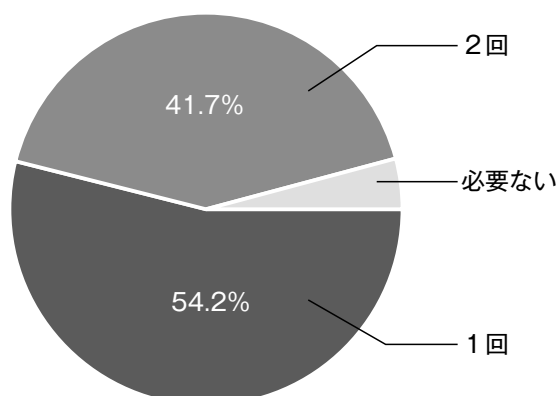


教科名（科目名）	English
授 業 者 名	William Treasure
I C T の 活 用 場 面 ・ 活 用 の 仕 方	スライドショーで動画や写真を見せるプレゼンをし、教室の外でのオンラインデモンストレーションや事例を紹介します。ICTは、内気な生徒の参加を促すために、答えを匿名にしたデジタルクイズなど、生徒との交流を深めるために使用することができ、プロジェクターを使った生徒のグループプレゼンテーションで、仲間同士や自主的な学習を促すことができます。 ICTは、生徒がより興味を持てるような「テーマ」を簡単に追加することができます。生徒が知っているキャラクターを登場させるといった簡単なことでも、生徒の興味を引くことができます。私は、「どうぶつの森」、「スプラトゥーン」、「逆転裁判」、「ポケットモンスター」、「マリオカート」など、生徒が知っていて楽しんでいるキャラクターを使っています。多くのALTは、人気のあるアニメを使っています。これらはすべてのレッスンに使えるわけではありませんが、ゲームの楽しいテーマになることがあります。
生 徒 の 反 応	様々なメディアを使うことで、生徒たちはより熱心になります。ICTはより多くの種類の活動を可能にし、生徒が楽しめるような多様性をもたらします。私がプレゼンテーションの中に入れた写真やビデオに、生徒が興味を示すことがよくあります。知っているキャラクターを見るのが好きなのでしょう。私の発表を見て、生徒が笑っているのをよく耳にします。これはいいです。彼らは毎日デジタル技術を使用しているので、デジタル技術に慣れているのです。
授 業 者 の 感 想	ICTをただ授業に使えばいいというものではありません。教科書の代わりとして使うのであれば、何も変わりません。ICTは、教科書やグループワーク、その他の活動を可能にするための付加価値として素晴らしいものです。新しいことを導入し、より多様にすることで、生徒をより夢中にさせることができます。ICTを使えば、生徒が楽しめるものを簡単に導入でき、よりバラエティに富んだ授業が可能になります。配布資料では不可能なことも簡単に見せることができます。デモや動画、写真なども、高価で難しいものではなく、企画次第で非常に簡単にできるようになります。 ICTを使えば、プレゼンテーションを「板書計画」として使うことができるので、一貫性があります。忘れ物や板書の間違いもなく、すべてプレゼンテーションの中にあります。また、毎回すべてを書き込む必要がないため、レッスンで使うのもスピーディーです。また、保存しておけば、授業の合間や翌年もすぐに更新して使うことができます。デジタルテキストは読みやすさも向上します。 黒板が捨てられたわけではなく、状況や授業特有の質問など、別のツールになっただけなのです。

次年度に向けて ～職員アンケートより～

研 修 部

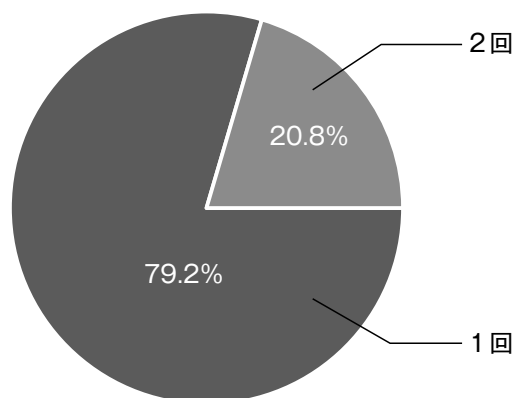
① 授業公開週間は、年何回の設定が望ましいと思いますか。



② ①の理由を回答してください。

- ・業務とのバランスを考えると2回であれば負担も少ないと思います。
- ・何回も設定しなくても、必要であれば授業を見せてもらっているため。
- ・ある程度長い期間で行わないと不在の先生もいたりするため、成立しないと思うので、行事や大会の日程を考えると適切な期間があまりないため。
- ・1回の方が気合が入る。
- ・他の先生方の授業を参観する余裕がない時期に設定されているため。
- ・各教科で都合のいい時期などがあると思うので、どちらかの時期で1回実施するのはどうか。
- ・他教科の指導方法はとても勉強になります。
- ・1回にしてもっと実効性のあるものにした方がよいと思うから。
- ・現状でちょうどよいから。
- ・アピールしたい授業内容の展開となっていないこと。また、形骸化しているため、役割分担させた方がよいと感じられること。
- ・アピール授業の授業者が適切な時期を選びやすくなるかと思います。
- ・例年通りで特に問題はないかと思います。
- ・アピール授業1回でも、期間は二つあるとやりやすい。
- ・1回しかないのだからきちんと取り組む、という意識で臨むのはどうでしょうか。
- ・他の行事と重ならないときに1度出来れば良いと思う。
- ・1回のほうが、ゆとりがあると思うからです。
- ・年に一度集中して行うのがいい。
- ・アピール授業に合わせた回数で良いと思います。
- ・前半・後半1回ずつでちょうどいいと思う
- ・回数を少なくすることで、余裕を持って授業参観できるのではないかと思います。
- ・行事や特別時間割などがあるから。
- ・業務のスリム化のため。
- ・行事等で多忙と思われるから。
- ・1学期1回、2学期1回くらいがちょうど良いと思うから。あまり設定されると準備が大変だから。

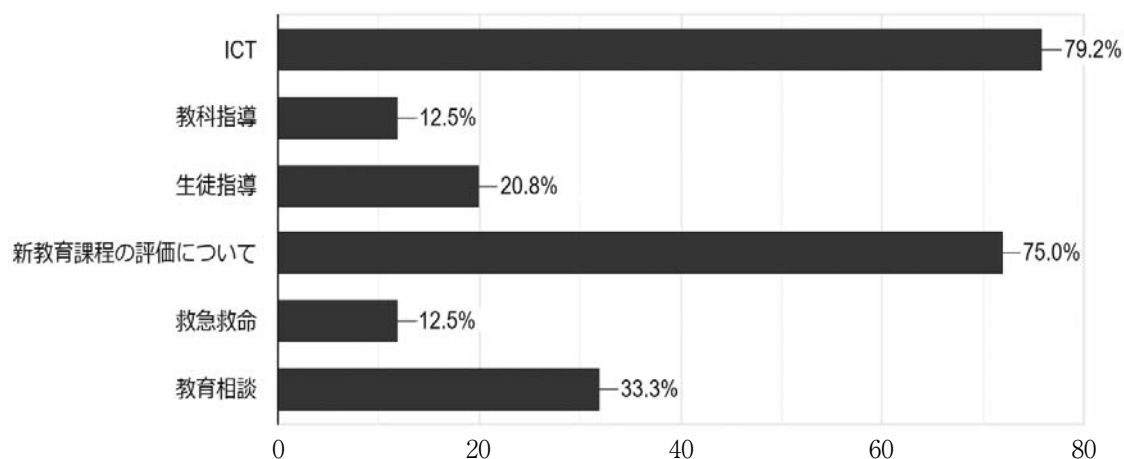
③ ①の授業公開週間において、各教科のアピール授業の回数は、年何回が望ましいと思いますか。



④ ③の理由を回答してください。

- ・業務とのバランスを考えると1回であれば負担も少ないと思います。
- ・同教科の人数が少ないので、2回以上になると毎年必ずアピール授業をしなければならず、負担が大きいため。
- ・授業公開週間に1回あればいいと思います。
- ・1回の方が気合が入る。
- ・アピール授業とそうではない授業の違いはあるのでしょうか。
- ・先生方は多忙なので1回で良い。
- ・負担にならないように。
- ・少人数の教科だと授業担当者の確保が難しいから。
- ・1授業公開週間で1アピール授業の現状でよいから。
- ・アピールできる授業を実施できるようにするため。
- ・教科の研修回数として適切かと思います。
- ・科の教員数に合わせて回数を決めてほしい。人数が少ないので、毎年アピール授業をしているため。
- ・アピール授業の回数が多くても、自分も授業があるために、自分の科目を見に行くことがなかなかできないので。
- ・ゆとりがあるほうがよいです。
- ・年に一度集中して行うのがいい。
- ・今のままで良いと思います。
- ・忙しく、なかなか準備の時間がとれない。
- ・アピール授業が形骸化してきているように感じます。より多くの先生が参観し、教科内での協議会を行うことを考えると年1回がよいのではないかと思います。
- ・略案でも指導案を書くことに思ったより時間がかかったから。ICTを使ったほうが効果的な内容の分野が限られるから。
- ・業務のスリム化のため。
- ・行事等に追われ、多忙で準備の期間をなかなかとれないと思うから。
- ・同教科の先生の授業も見て参考にしたかったから。1回しか機会が無いとそれができない人が出てくる。

⑤ 次年度、学校としてどのような研修が必要だと思いますか。(複数回答可)



⑥ 「研修部の本棚」に新しく入れて欲しい本があれば回答してください。

- ・ コーチング的なもの
- ・ 各教科の新課程学習指導要領と解説
- ・ 授業でのICT活用に関するもの
- ・ いろんな記録の文例集
- ・ 教科ごとのICTの授業事例集
- ・ 各教科の学習指導要領別冊

⑦ ⑥の理由を入力してください。

- ・ 自分の担当教科以外の変化も知らなくては連携ができないと思うから。
- ・ 授業に生かしたいと思います。
- ・ 参考にできることを学びたいから。
- ・ たまに必要になるので。

今年度の研修会風景より



開発課総菜班・菓子班
年齢層や生活スタイルなどの違いを意識し、ターゲットを明確にした商品開発

開発課ギフト班
アレルギー対応、ユニバーサルデザインを意識した商品開発

生徒会執行部
来場者アンケート、店舗投票、秋商物品販売、他校物品の受託、ビジネス実践の活動をHPにアップロード



ガイダンスの様子

3. 年間活動計画

4月

- ・ガイダンス
- ・生徒、職員への希望班調査
- ・本校教員による講話「商品とサービス開発、開発の基礎」
- ・所属班の発表と連携企業調査

5～6月

- ・連携企業への挨拶
- ・消費、販売動向の分析
- ・活動計画の立案
- ・企画書の作成、企業交渉、商品開発

7～8月

- ・試作品の評価、写真撮影

9月

- ・チラシデータの校正
- ・商品完成、商品名、価格の最終確認

10月

- ・広報活動、出店準備、「AKI SHOP」開催、決算報告

11～12月

- ・まとめ、活動報告会準備、報告会開催



商品企画書と試作品



試作品の評価の様子



校外での調査研究の様子



販売実習の様子



班の活動内容を紹介している様子



最終報告会の様子

4. 感染症予防対策

感染症対策を強化した開催は今年度で3年目を迎えました。今年は3年ぶりに竿灯祭が開催されるなど、県内でもコロナ禍前の日常に戻していこうという気運があったため、話し合いの結果、飛沫防止パネルの設置をせずに行いました。今後も世の中の情勢などに適切に対処しながら実施していきたいと思っています。

項 目	内 容
飛沫感染対策	・フェイスシールド着用
感 染 対 策	・不織布マスク、ゴム手袋着用 ・除菌シート配布
接 触 感 染 対 策	・手指消毒剤設置
ソーシャルディスタンス	・参加生徒の少人数交代制 ・会場配置の見直し
来 場 者 へ の 対 策 依 頼	・チラシ掲載 ・POP掲示 ・協力団体への健康調査依頼
接 客 の 工 夫	・試食の禁止 ・非接触の徹底 ・生徒や職員の健康状態の確認 ・爪を切る、髪をまとめる、エプロン着用などの身支度や手指消毒の徹底 ・店舗や使用道具の除菌

5. おわりに

来場者対象のアンケート結果のうち、「今年度のAKI SHOPでよいと思ったところ（選択肢：イベント、商品、接客、感染症対策、会場作り）」の回答結果では、接客が昨年度比23%増、会場作り11%増でした。ビジネスを学ぶ生徒として、より洗練された接客対応ができるように学習してきた結果の表れであり、より良い活動を追求してきたことが数値でも確認できました。

本校のビジネス実践が今後も発展し続けるために、さらにより良いビジネス実践を探究していきたいと思っています。

令和4年度キッズビジネスタウンの取り組み

キッズビジネスタウン担当 今 聡

キッズビジネスタウンがスタートして15年目となった。コロナウイルスの影響により、一昨年は中止、昨年は本校1年生を小学生役として実施という状況であったため、小学生を招いての従来通りの実施は3年ぶりとなった。今年は、参加した小学生の楽しんでいる姿が久しぶりに見られ、活気あふれるキッズビジネスタウンが本校に戻ってきた。

1. キッズビジネスタウンの目的

キッズビジネスタウンとは、小学生以下の子ども達が市民となり、「みなで働き、学び、遊ぶことで、ともに協力しながら街を運営し、社会の仕組みを学ぶ」教育プログラムである。模擬的に設定された街で、小学生が市民としてハローワークに行き仕事を探し、実際に働いて給料を得て、その給料で買い物を体験する教育的行事である。

本校生徒はキッズビジネスタウンの企画・運営を行う。当日は「社長」として子ども達の前頭に立って模擬店舗での販売などを一緒に行い、子ども達に社会の仕組みやビジネスの仕組みを教えることを通して、学びを深めることができる。企画や運営を通して、教えることの難しさや、ビジネスに必要な知識を客観的な視点から知ることができるものである。

このような活動を通して、ビジネス実践全体の目標である「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を体得し、社会人基礎力を育てることを目的としている。

2. 令和4年度の活動

今年度は秋田商業高校を会場に、10月14日（金）に勝平小6年生を対象に、15日（土）には一般参加の小学生を対象に開催された。キッズビジネスタウン担当の生徒は2・3年生の30名で、以下の流れで活動した。1年生は各店舗従業員として、当日の活動に参加した。

(1) スケジュール

- ・ 5月：ガイダンス、基礎学習
- ・ 6月：店舗の模索、決定
- ・ 7月：企業への研修、交渉等
- ・ 9月：求人票、マニュアルの作成
- ・ 10月：店舗準備、1年生へ指導、本番
- ・ 11月：振り返りと反省
ホームページ作成
- ・ 1月：ホームページ公開
報告会の実施

(2) 今年度の開設店舗（29店舗）

分 類	内 容
公 共 施 設	ハローワーク、銀行、税務署、消防署、警察署、病院、保健所、考古学センター
小 売 業	コンビニ、デパート、駄菓子屋
サービス業	新聞社、テレビ局、運動教室、清掃局、ビューティーサロン、写真館
製 造 業	手芸工房、キャンドルショップ、ボールペンショップ、手作り巾着屋、文房具屋
飲 食 店	パスタ屋、ドリンクショップ、パンケーキ屋、ドーナツ屋、たこ焼き屋、キッズヘラ、うどん屋

3. 当日の様子

1日目は勝平小学校の児童90名、2日目は一般応募してくれた190名の小学生の参加があった。

今年度の開催時間は10時から14時までと例年よりも1時間短く、小学生の労働時間も例年よりも10分短い30分として労働の回転数を増やすよう工夫した。限られた時間の中で何度も働く小学生が見られ、複数の仕事を体験できていたように感じた。

事後アンケートから、参加者の感想は以下のようであった。

<小学生アンケートより>

	はい	いいえ
楽しかったか	193	0
お金の大切さを実感	193	0
ものの大切さを実感	187	6
来年も参加したい	150	36
秋商に入学したいか	108	32

<保護者アンケートより>

- ① 何でキッズを知ったか
 - ・過去に参加したから : 13
 - ・秋田市広報を見て : 26
 - ・情報誌を見て : 1
 - ・ホームページを見て : 6
 - ・知人からの話 : 4
 - ・学校からの通知 : 24
 - ・その他 : 8
- ② 来場した交通機関
 - ・自家用車 : 68
 - ・徒歩 : 6
 - ・公共交通機関等 : 6
- ③ 満足度
 - ・大変よかった : 63
 - ・よかった : 17
 - ・物足りなかった : 2
- ④ 来年度も参加させたいか
 - ・参加させたい : 74
 - ・遠慮したい : 8
- ⑤ 秋商は子どもの進学先として
 - ・進学させたい : 20
 - ・候補に入りたい : 56
 - ・考えていない : 6

4. 実施上の成果と課題

(1) 成果

キッズビジネスタウンでの店舗経営を通じて、「自ら進んで行動すること」「決断力の大切さ」「自分の仕事に責任を持つこと」などを改めて学び、「リーダーとしての意識」や「人をまとめる能力」が成長したと感じていた。

小学生のアンケートから、働いて給料を得ることで「お金の大切さ」を実感することが出来ていたことが分かり、キッズビジネスタウンの目的が達成されていた。

(2) 課題

小学生が安全に楽しく仕事をするためには、店舗経営者が1年生の社員と協力して活動することが重要であるが、具体的な作業内容を伝えられないために作業がスムーズにいかない場面が見られた。

想定していなかった状況が発生し、臨機応変な対応に困る場面も見られた。自分が考えている以上に細かく、どんなことが起こるかを想定して先を見据えた準備が必要であった。

ビジネス実践全体の目標である「チームで働く力」「考え抜く力」の体得、という観点から考えると物足りなさが残った。

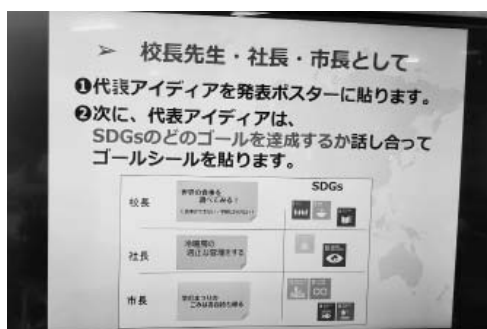
今後は今年度の反省をもとに、商業高校生として学んだ専門性を活かし、より充実したキッズビジネスタウンを展開できるようにしていきたい。

エコロジカルビジネス班の活動

エコロジカルビジネス班担当 石 塚 禎 子

今年度の主な講座

- 5/19 「不都合な真実」視聴
- 5/26 「不都合な真実」視聴
- 6/ 2 「SDGsの達成を目指そう」
- 6/ 9 「環境とプラスチック」
- 6/16 「環境問題×起業」
- 6/23 「木はがきづくりを通じて学ぶ森林保全」
- 6/30 「新聞を読み秋田が抱える問題を考える」
- 7/14 「エネルギーパーク」視察見学
- 7/20 「SDGs / 気候変動 ワークショップ」
- 9/15 「高校で学んだこと、起業について」
- 9/22 「海の環境と日本、バヌアツでの経験」
- 9/29 「カヌー活動からみえた秋田市内の環境」
- 11/17 「ブラウブリッツ秋田キャプテンによる講話」



自分が市長だったらどのような施策をするか考えた

今年度のエコロジカルビジネス班は、3年生8名、2年生15名で活動した。今年もまた、「一般社団法人あきた地球環境会議」の協力を得て、上記のような講座を実施した。主に環境問題やSDGsについて学び、基礎的な知識を身につけることができた。また、若者の起業を推進している方や、青年海外協力隊で活動していた方など、秋田にも様々な活動をしている人がいることを知り視野を広げることができた。これらの講座を受講し、持続可能な社会を形成するために、自分たちに何がで



再生可能エネルギー施設の見学

きるのかを考える良いきっかけとなった。

AKI SHOPでの活動

例年通り、資源の再利用を推進するというコンセプトのもと、以下の3つの活動を行った。

①ダリアの無料配布



AKI SHOP前日に農園でダリア摘み



一本ずつラッピングし、来場者に選んでもらった

②秋田杉の端材を活用したエコ箸づくり

箸作りの講師の方に来ていただき、来場者に箸作り体験を楽しんでもらった。



③フリーマーケット

班員で不要品を持ち寄り、値付けして販売した。収益金は、毎年、日本ユネスコ協会連盟へ寄付している。

教職5年目研修講座（高等学校）

商業科 佐藤友弥

1 はじめに

本講座の研修目標は、「学校組織マネジメントの意識を高め、学習指導や学年経営、生徒指導等についての実践的指導力の向上を図る」ことであり、今までの指導とこれからの指導の在り方について深く考えさせられ、すぐに実践することが必要な内容も多くあった。

2 講座の内容

(1) 教育相談と人間関係づくり

教育相談を行う上で大切な考え方は、学校で起こる事例（問題）は、「関係性」に注目するものの見方が必要であるということだ。学校には様々な人間関係があることから内面を理解するために話を聴き（相談）、必要に応じて行動の改善を図るために話をする（指導）。このことに留意することで「心理的事実」と「客観的事実」が整理され、向き合えるようになるという。この2つの事実が混同してしまうと小さなトラブルが大きな事件や事故に繋がるきっかけとなるので軽視してはならないことを学んだ。

人間関係づくりにおいては、教師が、生徒が困らないための「居場所づくり」をし、その前提で生徒が「絆づくり」をすることが大切である。高等学校での居場所づくりをするためには不安や悩み、問題行動等の適切な把握や校内外のマナー等の周知が挙げられた。絆づくりについては地域の祭りやイベントへの参加、異年齢交流ができるインターンシップやボランティア活動が挙げられた。挙げられた内容は珍しいものではなく、どの学校でも取り入れられているからこそ蔑ろにせず、目的意識を持って計画することがよりよい人間関係づくりに繋がることを再確認できた。

(2) 学校組織の一員として ―マネジメントの視点―

顧客や住民のニーズに応えるための組織マネジメントと違い、学校組織マネジメントは学校教育目標を達成することである。①学校全体②分掌、教科、学級等のチーム③教職員の3つに分類され、全ての教職員がマネジメント機能を果たすとされている。最後に、マネジメント機能を果たすためには自分の学校を知る必要があるため、学校プレゼンテーションの作成を行った。

思っていた以上に作成するのが難しく、学校全体の進むべき方向性が明確であるからこそ、教職員はチームとして目標を達成する喜びを感じたり、そのプロセスで切磋琢磨したり、生徒に自信を持って踏み込んだ指導ができると再確認できた。

(3) 発達障害のある生徒の理解と支援

特別な支援や事情を抱えている生徒は年々多くなっているため、特別支援教育の視点から三つのユニバーサルデザイン化が必要であることを学んだ。一つ目は「授業」でICTを活用し「視覚的」に示すこと、「板書」と「机間指導」の工夫である。二つ目は「教室環境」で「不用意な刺激」を取り除くこと、「動線」と「手がかり」の工夫である。三つ目は「人的環境」で「肯定的に評価」する、「クラス」を育てるなどがあった。今後、どの教育段階においても三つのユニバーサルデザイン化は進めていく必要があると感じたので、他の学校の取り組みにも注目したい。

(4) 生徒の実態を踏まえた授業改善

授業の柱を「教師が教える」から「生徒が学ぶ」にするために、生徒自身で考え学び、解決することを意識した授業の流れを作ることが大切である。そのためには、主体的な学び（自分達で

考える時間)、対話的な学び(グループワーク、ICT)、深い学び(考えたことが結果に辿り着く)の三つに留意して取り組むことが重要である。生徒に期待し、意識させ、予測させることを繰り返し仕掛ける必要があることを感じたので、今後の教材研究や授業改善に生かしていきたい。

3 まとめ

教諭としての経験を徐々に積み重ねている時だからこそ、今回の講座内容は、実に有意義なものであった。今年度から新しい学校に赴任したことで、自身の立場や役割を理解して学校をマネジメントしていく視点を持って職務に携わっていきたい。時代に合わせた考え方や接し方、指導方法や手段を理解し、充実した教育活動に繋げられるようにしたい。

実践的指導力向上研修講座（高等学校8年目）

商業科 千葉 知 美

1 はじめに

本研修の目標は、「自己理解に基づき、個々の個性・適性、分掌等に応じた資質能力の向上を図る。」であった。本研修を通して、自身の足りない資質能力を理解し、改善につなげることを目標に研修に臨んだ。

2 期 日

I 令和4年6月15日（水） II 令和4年8月8日（月）

3 内 容

I (1) 講義・演習「不登校の未然防止と対応」

秋田県総合教育センター 指導主事 小野寺 祐 先生

(2) 講義・演習「学校組織の一員として ―自己理解に基づく目標設定―」

秋田県総合教育センター 指導主事 八柳 英子 先生

(3) 講義・演習「カリキュラム・マネジメント」

秋田県総合教育センター 主任指導主事 小松田 哲也 先生

II 協議・演習 授業評価による継続的な授業改善

秋田県総合教育センター 主任指導主事 小林 真人 先生

4 概 要

I (1) 不登校の未然防止と対応【生徒指導力】

不登校は取り巻く環境によって、どの生徒にも起こり得ることであり、多様な要因から発生する。文部科学省の調査によれば、不登校生徒が在籍する高等学校の比率は79.7%に及ぶ。このような現状を踏まえ、全ての教員が不登校に対する支援方法や考え方を理解する必要がある。

不登校には、①未然防止（健全育成）②初期対応（早期発見・早期対応）③再登校支援（自立支援）という3つの対応が求められる。①未然防止（健全育成）のキーワードは、生徒の自己有用感の育成である。自己有用感を育てるためには、生徒の長所を認め、生徒の立場に立って寄り添う姿勢が重要である。②初期対応では、その生徒の不登校の背景によってアプローチが異なる。「学校に行かない」タイプは、登校刺激を与えながら、様子をうかがう。「学校に行けない」タイプは、見守りながら、登校刺激のタイミングを図る。「気力がない」タイプは、まず「元気がでてる」ために何が必要かを考えるなど、状況によった対応が求められる。③再登校支援では、スモールステップで成功体験を積み重ねる指導を意識すると良い。

(2) 学校組織の一員として―自己理解に基づく目標設定―【マネジメント能力】

学校組織マネジメントとは、学校が有している能力・資源を開発・活用し、学校に関与する人たちのニーズを適応させながら、学校教育目標を達成していく過程のことをいう。私たち教員も、学校組織の人的資源の一部であるため、教員一人ひとりが自身の資質を高めていくことも、学校組織マネジメントの一部である。

この演習では、自身の資質・力量マップを作成し、自己の資質能力の分析を行った。この演

習を通して、私は「わかりやすく伝える力」が不足していることに気付いた。「わかりやすく伝える力」については、教科に関する知識不足と繋がっていると感じたため、より一層の教材研究に努め、課題克服に努めようと考えた。

(3) カリキュラム・マネジメント【教科指導力】

新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の充実が明記されている。日本の教育において「主体的・対話的で深い学び」が必要とされるのは、OECD国際教員指導環境調査において、次の課題があげられたことによるそうだ。

- ①明らかな解決法が存在しない課題を提示する。
- ②批判的に考える必要がある課題を与える。
- ③課題や学級での活動にICTを活用する。

色々な話を伺ったが、私は講師の先生の「授業は挑戦」という言葉が一番印象に残った。上記の3点の課題を留意し、このあとの研究授業に取り組むことにした。

II 授業評価による継続的な授業改善

この演習では、同期の先生方と4人1グループとなり、授業を録画したDVDを視聴し、授業改善の研究協議を行った。他の先生の授業は、授業のねらいが明確で、生徒の発言を引き出す工夫がされている授業であると感じた。

私は、ビジネス経済 ―経済政策 財政― の単元で、ふるさと納税のメリット・デメリットをテーマに授業を実践した。指導主事の先生からは、「取り扱う内容が多い」「発問の精選」「生徒の実態に応じた着地点を設定する」などの助言をいただいた。

5 まとめ

秋田教職キャリア指標では、8年目の教員は第2ステージにあたる。「積極的に学年経営に参画しようとする姿勢を持ち、個々の個性・適性・分掌等に応じた資質能力を向上させる」という目標に照らし合わせると、私は学校組織に参画するという意識が不足していると感じた。組織にぶら下がる教員でなく、推進力の一助を担う教員となれるよう、自己研鑽に励んでいきたい。

中堅教諭等資質向上研修講座（高等学校）

商業科 須田 州 逸

1 校外研修について

①センター研修

I 期	6月28日（火）	【開講式】 中堅教諭等への期待 ○質の高い授業研究を継続的に進めていくための方略 ○学校の危機管理 ○学校組織の一員として①－リーダーシップ－
II 期	7月26日（火）	○高い専門性に基づく教科指導の充実と推進
III 期	8月25日（木）	○いじめの理解と対応 ○気になる生徒の事例を通した具体的対応の理解
IV 期	10月12日（水）	○教育活動全体を通じたキャリア教育 ○学校全体で取り組む情報教育 ○人間としての在り方生き方を考える道徳教育
V 期	1月10日（火）	○教育公務員の服務 ○学校組織の一員として②－キャリアデザイナー－ ○これからの学校教育 【閉講式】 中堅教諭等資質向上研修を終えるに当たって

I 期では、「質の高い授業研究を継続的に進めていくための方略」として、東京未来大学特任教授の阿部昇先生の講義を受講し、物事を捉える視点や考え方について、具体的な見方や考え方を確認することができた。教材研究力の4つのポイントとして、①「言語」に徹底してこだわること、②構造的・文脈的に教材を見ること、③多面的・多角的に教材を見ること、④批判的・評価的に教材を見ることを教えていただいた。特に、生徒の批判的思考を生かし、生徒の主体性を引き出すという考え方は、深い学びに繋がる大きなヒントとなった。また、授業構成力については、①授業の目標、②「飛躍点」、③探究過程、④そのための助言で、授業を構成する方法を具体的に説明していただいた。生徒は始めに答えやゴールに着目してしまうが、「飛躍点・発見点」と呼ばれる部分を意識して授業を構成すると、生徒が目標を達成するために、授業内のどの部分が重要かも考えるようになるなど、効果的な授業構成方法について学ぶことができた。阿部先生の言葉で、「授業研究の成否は「事前研究」の質で7割決まる」という言葉が印象に残っている。様々な業務をこなす毎日だが、自分の授業に対する姿勢を引き締める大切な言葉となった。

IV期では、「学校全体で取り組む情報教育」の講義を受講して、学習指導要領等における情報教育の進行状況、現在の高校生の実態やSociety5.0というこれからの社会について確認し、今後更に学校では情報教育に関して大きな変化に対する柔軟な対応が求められると感じた。小学校や中学校など各学校段階を通じたプログラミング教育の推進により、高校でのタブレットの使用方法や指導内容・指導方法など、小・中学校でのプログラミング教育によって身に付けた能力を踏まえてより活用できるようにしていく必要があり、今後も特に研修が必要である分野だと考えている。

授業での活用に加えて、校務支援システムなど学校全体でも情報システムを活用していくことが

求められるため、円滑な校務を行うためには、使用する機器やソフトウェアに関する知識や技術も必要である。また、学校全体でどのように活用していくかは、学校の形態や実態にあわせて検討する必要がある。学校運営に生かせるように学校での活用方針の明確化に資する研修等があれば積極的に参加していきたい。

②選択研修

選択研修では、スポーツをビジネスとして展開している企業の企業理念や経営方法を知り、商業科目における実践的な指導方法に生かしたいと考え、野球をビジネスとして展開している株式会社ボールパーク秋田の藤田様に研修を依頼した。

企画を実行するために提案事項等における関係者との調整力が課題を解決していくために大切であり、多くの企業や人と繋がりを持ち、自社の経営とそれぞれの企業・人が最終的にWin-Winの関係になるように、丁寧に調整や連絡・相談を行っていた。営業訪問にも同行させていただいたが、様々な情報を得て、その情報や人を適切に繋ぎあわせて、ビジネスにおける課題を創造的に解決していく様子が伺えた。

短い期間であったが、ビジネスにおける実践的な企画・調整について学ぶことができた。今回の研修で学んだことを生かし、商業という教科を通してビジネスにおける課題に前向きに取り組む生徒を育成していきたい。

③授業研修

授業研修は、9月7日（水）に大曲高校の1年生のクラスで実施した。他校での実施ということで、いつも以上に細かい配慮や準備が必要となったが、授業の際に必要な準備について細かく再確認する良い機会となった。また、1年生の授業を実施したことで、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的な学習に取り組む態度」での評価規準による学習指導案を作成することができた。「思考・判断・表現」の観点では、知識や技術をさらに用いて、ビジネスにおける課題を解決するための思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価できるように授業を実施した。

授業後の協議では、指導主事の近藤俊春先生を始め、大曲高校の先生方にご助言をいただき、評価方法の工夫についての考えを深めることができた。発表やグループでの話し合い以外での評価方法として、論述やレポートの作成、作品の制作や表現等の多様な活動やそれらを集めたポートフォリオの活用などの事例を紹介していただいた。

2 これまでの10年を振り返って

中堅教諭等資質向上研修を通して、ミドルリーダーに必要とされる資質について、「あきたキャリアアップシート」による評価をもとに、自身のこれまでの取り組みの確認や評価を行うことができた。秋田県教職員キャリア指標に示された求められる資質能力のマネジメント能力と生徒指導力という分野では、課題の残る評価が多く、今後も学校運営に主体的に参画していくことや校外研修への参加など積極的な研修が必要であることがわかった。今後5年間を見据えた研修計画をもとに、継続して研修に励み、今後の教育活動に生かしていきたい。

○「あきたキャリアアップシート」

第3ステージ(目安:11年目～)実践的指導力充実期

個人情報			本県の教育課題への対応										マネジメント能力										生徒指導力					教科等指導力				
所属	校種	氏名	職歴(年)	①-1	①-2	②-1	②-2	③	④	①-1	①-2	①-3	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①-1	①-2	②	③							
秋田市立秋田商業	高等学校	須田 州彦	11	年度初	2	3	3	3	3	3	2	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	3	2	2							
2022/4/1	2021/11/30	2023/3/31	重点	0	0	0	0	○	0	0	0	0	0	0	○	0	◎	0	0	0	0	0	0	○	○							
364	466		年度末	3	2	3	3	3	3	3	2	3	3	3	3	2	3	3	2	3	3	3	3	3	3							
									2.83							2.57					2.00				2.25							
									2.83							2.71					2.75				3.00							

「あきたキャリアアップシート」
自己評価

— 年度初 — 年度末

教科等指導力

①-1
①-2
①-3
②
③
④
⑤

本県教育課題への対応

①
②
③
④
⑤

①-1
①-2
①-3
②
③
④
⑤

マネジメント能力

①
②
③
④
⑤

生徒指導力

研修のおしごと			研修名			主な研修内容		
期 日	期 日	期 日	期 日	期 日	期 日	期 日	期 日	期 日
8月21日	8月21日	8月21日	校内授業研修	校内授業研修	校内授業研修	学ぶ意欲を高め、深い学びへと導くための授業改善	授業実践、協議	
8月28日	8月28日	8月28日	中堅教諭等経営向上研修講座(高等学校)Ⅰ	中堅教諭等経営向上研修講座(高等学校)Ⅰ	中堅教諭等経営向上研修講座(高等学校)Ⅰ	質の高い授業研究を継続的に進めていくための方略、学校の危機管理、リーダーシップ		
8月28日	8月28日	8月28日	中堅教諭等経営向上研修講座(高等学校)Ⅱ	中堅教諭等経営向上研修講座(高等学校)Ⅱ	中堅教諭等経営向上研修講座(高等学校)Ⅱ	高い専門性に基づく教科指導の充実と推進		
8月31日	8月31日	8月31日	選択研修	選択研修	選択研修	ボールパーク秋田にてインターンシップ		
8月25日	8月25日	8月25日	中堅教諭等経営向上研修講座(高等学校)Ⅲ	中堅教諭等経営向上研修講座(高等学校)Ⅲ	中堅教諭等経営向上研修講座(高等学校)Ⅲ	いじめの理解と対応、気になる生徒の事例を通じた具体的な対応の理解		
9月7日	9月7日	9月7日	中堅教諭等経営向上研修講座(高等学校)Ⅳ	中堅教諭等経営向上研修講座(高等学校)Ⅳ	中堅教諭等経営向上研修講座(高等学校)Ⅳ	授業実践、授業参観、協議		
10月12日	10月12日	10月12日	中堅教諭等経営向上研修講座(高等学校)Ⅴ	中堅教諭等経営向上研修講座(高等学校)Ⅴ	中堅教諭等経営向上研修講座(高等学校)Ⅴ	人間としての在り方生き方を考える道徳教育、学校全体で取り組む情報教育、教育活動全体を通じたキャリア教育		
10月27日	10月27日	10月27日	校内授業研修	校内授業研修	校内授業研修	学ぶ意欲の向上や深い学びへと導く、GoogleFormsを活用した授業改善、授業実践、協議		
11月11日	11月11日	11月11日	秋田県高等学校商業教育研究大会	秋田県高等学校商業教育研究大会	秋田県高等学校商業教育研究大会	教師のためのキャリアデザイン、ICT活用による学習効果、Society5.0に向けた情報活用能力の育成		
12月3日	12月3日	12月3日	商業教育講習会	商業教育講習会	商業教育講習会	Webシステム開発入門(ネットワーク活用)		
1月10日	1月10日	1月10日	中堅教諭等経営向上研修講座(高等学校)Ⅵ	中堅教諭等経営向上研修講座(高等学校)Ⅵ	中堅教諭等経営向上研修講座(高等学校)Ⅵ	教育公務員の服務、キャリアデザイン		
0月0日	0月0日	0月0日	校内授業研修	校内授業研修	校内授業研修	これからの学校教育		0

○今後5年間を見据えた研修計画

今後5年間を見据えた研修計画				
	本県の教育課題への対応	マネジメント能力	生徒指導力	教科等指導力
目 標	ICT活用指導力の向上として、ICTを活用して教科指導や生徒指導、学級経営などの場面において適切な指導・助言を充実させる。	学校経営への参画として、組織におけるマネジメント能力を培い、保護者や関係機関との連携を図りながら、学校経営に積極的に参画する。	生徒一人一人の課題に対する指導・支援に係る校内組織マネジメント能力を高める。	生徒の主体性や学習状況に応じた多様な単元(題材)構想や柔軟性のある授業展開能力を高める。
取り組みたい事項	①ICTを活用した生徒一人一人のポートフォリオ作成とその組織的な活用に取り組む。タブレットを活用して生徒自身が自分の取り組みを定期的に更新し、そのデータをもとに教科指導や学級経営などでの適切な指導・助言を行う。	①学校目標や学校の特色を踏まえた教育活動に教職員が組織的に取り組み、ICTを活用しながら家庭や関係機関と効果的な連携を図り、「目指す生徒像」に基づいて生徒の育成を図る。	①各学年部で抱えている生徒一人一人の様々な課題についての情報を職員会議等で共有し、学年部、授業担当者、部活動顧問など組織としてどのように支援できるか考え、実践する。また、その仕組み・体制づくりなどにも取り組む。	①ICT(ClassroomやGoogle Forms)を活用し、授業改善に取り組む。生徒個々の学習状況管理や評価にも取り組み、生徒の主体性や柔軟性のある対応力を育成する。 ②東京未来大学特任教授の阿部昇先生の講義であった質の高い探究型授業を創り出すための三つの力のうち、「授業構成力」を高めるため飛躍点を意識した授業を展開する。

「授業研修」学習指導案

日 時：令和4年9月7日（水）2校時
クラス：大曲高等学校16R（35名）
教科書：高校簿記（実教出版）
授業者：須田州逸（秋田商業高校）

1 単元名 第12章 決算（その1） 3 貸し倒れの見積もり

2 単元の目標

- ① 決算整理における貸し倒れの見積もりの意味と売掛金の期末残高の関係を理解し、見積もり額の計算と記帳法、貸倒引当金勘定設定後の貸し倒れの処理の記帳法を身に付ける。
- ② i 貸倒引当金勘定設定後の貸し倒れの処理において、貸倒引当金と貸倒額の金額の差を基に判断し適切に処理する。
ii 貸し倒れになった売掛金の発生時期による処理について、適切に判断する。
- ③ 貸し倒れの取引に関心を持ち、自分の考えをもとに周囲と強調し、結論を出すようにするなど主体的に課題に取り組む。

3 生徒と単元

男子13名、女子22名の計35名のクラスである。物事を理解しようと落ち着いて話を聞き、練習問題などにも集中して取り組むなど、意欲的に授業に臨む生徒が多い。また、自分の考えは持っているが自分の意見を表現することには消極的である。読解力が必要となる問題になった際に、取引の理解や整理ができずに悩む生徒が多く、取引についての深い理解が必要であると感じている。この単元は、貸倒引当金勘定設定後の貸し倒れの処理において、売掛金の発生時期の違いや貸倒引当金残高によって処理が異なり判断が難しい部分である。また、貸借対照表の売掛金の記載部分につながる部分であり、期末資産額を適正に評価するために深い理解が必要である。そのため、思考や判断の場面では、自分の解釈や考えを伝える作業を取り入れ、処理の判断の理解を深めさせ、生徒の主体性をさらに育成できるように指導していきたい。

4 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
決算整理における貸し倒れの見積もりの意味と売掛金の期末残高の関係を理解し、見積もり額の計算と記帳法、貸倒引当金勘定設定後の貸し倒れの処理の記帳法を身に付けている。	貸倒引当金勘定設定後の貸し倒れの処理において、貸倒引当金残高や売掛金の発生時期から適切な処理を判断している。	決算整理における貸し倒れの見積もりに関する取引について、自ら学び、結論を導き出そうと主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

5 指導と評価の計画 第12章 決算（その1） （全9時間）

- 1 決算整理の意味
- 2 商品に関する勘定の整理（売上原価の計算）・・・2時間
- 3 貸し倒れの見積もり・・・2時間（本時1／2）
- 4 固定資産の減価償却
- 5 棚卸表・・・1時間
- 6 8桁精算表・・・1時間
- 7 帳簿の締め切り・・・1時間
- 8 損益計算書と貸借対照表の作成（その1）・・・2時間

6 本時の計画

(1) 本時の目標

決算における貸し倒れの見積もりや関係する勘定科目の意味を理解し、基本的な仕訳や見積額の計算方法を身に付ける。

(2) 展 開

	○学習内容・●活動	指導上の留意点	評 価
導入 7分	○貸し倒れと決算整理 ●決算整理の意味を確認する。 ●貸し倒れの処理について確認する。 ●本時の目標を確認する。	・ パワーポイントを使用して授業を進める。	
展開 38分	○貸し倒れの見積もり ●貸し倒れの見積額と次期に回収と予想される売掛金の金額を計算し、勘定科目の意味と仕訳の記帳法を確認する。 ●貸し倒れの見積もり後に、貸し倒れが発生した場合の記帳について確認する。 ○貸し倒れの見積もりの意味について考える。	・ 決算振替仕訳は第7章で確認済みのためここでは行わず、帳簿の締め切りで確認する。	
	発問：なぜ実際に発生していない貸し倒れに対して、貸倒引当金を設定するのだろうか？		
	●自分の考えをまとめる（3分） ●グループで考えをまとめる（3分） ●発表 ○決算における貸し倒れの意味について確認する。 ●まとめを記入する。 ○●練習問題を解く。	・ 結論を出すよう最初に説明して考えさせる。 ・ 机間指導を行う。 ・ 発表者を決めさせて再度文章の確認をさせる。 ・ 机間指導を行う。	・ 自分の考えをもち、周りと協力して結論を出し、考えを記帳している。 〔B〕 観察、ワークシート ・ 取引の内容を理解し、貸倒引当金の見積額の計算と仕訳を適切に行っている。 〔A〕 観察、ワークシート
振り返り 5分	・ 本時のまとめをと自己評価を行う。 ・ 次時以降の予定を確認する。	・ 認知症の人への関わり方についてまとめさせる。	

〔評価の観点〕：A知識・技術 B思考・判断・表現 C主体的に学習に取り組む態度

Ⅱ 校内年間研修報告書

秋田市立秋田商業高等学校

研修教員	須田 州逸（商業・１年Ａ組）	校長	瀧澤 徳彦
------	----------------	----	-------

実施月日 (曜日)	研 修 内 容	領域	研修の方法・形態	時間割内・放課後の別		研修 時間	研修指導者
				内	外		
5 23(月) 25(水)	ホームルーム活動の指導案の作成(1) ホームルーム活動の授業実践に基づく授業研究(1)	教 教	授業研究 授業研究	1	2	2 1	学年主任 学年主任
6 1(水) 2(木) 3(金) 13(月) 14(火) 16(木)	教育目標の達成と学校経営について 高校教育の現状と課題について 教材研究と指導案の作成の指導(1) 特定課題研究の進め方 教材研究と指導案の作成(1) 授業実践に基づく授業研究(1) 授業参観と助言(1)	マ マ 教 特 教 教 教	一般研修 一般研修 授業指導 一般研修 授業研究 授業研究 授業指導	2 2 1 1 1	 2 1 1 1 2	2 2 2 1 2 2 2	校長 教頭 商業科主任(若) 研修主任 商業科主任 校長・商業科主任 教務主任(若)
8 25(木) 26(金) 29(月) 30(火) 31(水)	教材研究と指導案の作成(2) 選択研修のまとめ 授業参観と助言(2) 授業実践に基づく授業研究(2) 教材研究と指導案の作成の指導(2)	教 選 教 教 教	授業研究 一般研修 授業指導 授業研究 授業指導	 1 1 2	2 2 1 1 2	2 2 2 2 2	商業科主任 校長・副校長 副校長(講) 商業科主任 副校長(講)
9 13(火) 15(木) 22(木) 27(火)	教育課程の編成・教務内規について 部活動・生徒会活動に関する事例研究 ホームルーム活動の指導案の作成(2) 保健室利用の実態について	マ 教 教 生	一般研修 一般研修 授業研究 一般研修	 2 1 2	2 1 1	2 3 2 2	教務主任 特別活動主任 学年主任 養護教諭
10 7(金) 19(水) 26(水) 27(木)	教材研究と指導案の作成(3) ホームルーム活動の授業実践に基づく授業研究(2) 授業参観と助言(3) 授業実践に基づく授業研究(3)	教 教 教 教	授業研究 授業研究 授業指導 授業研究	1 1 1 1	1 1 1 1	2 2 2 2	商業科主任 学年主任 商業科主任(講) 商業科主任
11 9(火) 10(水) 17(木) 29(火)	生徒指導の事例研究 教育法規について 道徳教育指導計画の作成について PTA・地域との連携について	生 マ 教 マ	一般研修 一般研修 一般研修 一般研修	1 1 1	1 1 1 1	2 2 1 2	生徒指導主事 道徳教育推進委員長 総務主任
12 21(水)	特定課題研究のまとめ	特	一般研修		2	2	研修主任
1 13(金)	進路指導の現状と課題について 生徒の行動面についての評価	基 生	講話→一般研修 一般研修	1 1	1 1	2 2	進路指導主任 生徒指導主事
2 17(金)	特定課題研究の発表	特	一般研修		1	1	校長以下全員

実施日数 合 計	研修方法・形態別の研修日数（時間数）				時間割内研 修時間計(a)	放課後研修 時間計(b)	研修時間 合計(a+b)
	講話	授業研究	授業指導	一般研修			
28	1 (1)	10 (19)	5 (10)	14 (27)	23	34	57

選 択 研 修 報 告 書

所 属 校	秋田商業高等学校	職・氏名	教 諭 須田 州逸
研 修 先	株式会社ボールパーク秋田		
研 修 期 間	令和4年8月1日（月）、令和4年8月22日（月）～令和4年8月23日（火）		
1 研修の概要			
8月1日（月）	8：30～10：00	オリエンテーション、事業説明	
	10：00～12：00	会報誌の編集についての説明	
	13：00～16：30	営業訪問および大会運営の打合せ	
	16：30～17：00	ミーティング	
8月22日（月）	8：30～12：00	会報誌の編集作業	
	13：00～16：30	会報誌の編集作業	
	16：30～17：00	ミーティング	
8月23日（火）	8：30～14：00	営業訪問	
	14：00～16：30	会報誌の編集作業	
	16：30～17：00	ミーティング・あいさつ	
2 研修の成果			
今回の研修では、スポーツをビジネスとして展開している企業の企業理念や経営方法を知り、商業科目における実践的な指導方法に生かしたいと考え、野球をビジネスとして展開している株式会社ボールパーク秋田の藤田様に研修を依頼した。 ボールパーク秋田は、秋田の野球を盛り上げ、秋田県全体の活性化にも貢献できるような企業を目指しており、野球の大会の企画・運営や自社で作成する会報誌で野球情報を配信するなど、より多くの人に野球の楽しさ、奥深さといった魅力を伝えながら、地域や年代の繋がりを創造している企業である。参加させていただいた大会の企画・運営の打合せでは、運営を効率よく予算内で実施していくために、開催方法や各チームの役割などを工夫し、参加する各チームが楽しめるように考えて実施方法を検討していた。企画の工夫も大切であるが、提案事項等における関係者との調整力も課題を解決していくためには必要であると感じた。また、野球といっても、小学生から高校生、社会人、クラブチームなど、年代や性別、地域の違いや、硬式や軟式などの種類も様々である。開催される試合の情報収集をもとに関係するチームに取材に行くなど、連絡・調整が非常に多く、開催場所も多岐にわたるため、大変な労力が必要であると感じた。しかし、こういった繋がりを大切にしており、多くの企業や人と繋がりを持ち、自社の経営とそれぞれの企業・人が最終的にWin-Winの関係になるように、丁寧に調整や連絡・相談を行っていた。営業訪問にも同行させていただいたが、様々な情報を得て、その情報や人を適切に繋ぎあわせて、ビジネスにおける課題を創造的に解決していく様子が伺えた。 短い期間であったが、ビジネスにおける実践的な企画・調整について学ぶことができた。ボールパーク秋田代表の藤田様は、新競技の大会企画なども考えており、どうすれば実現できるかという前向きな発想をもとに、課題に向き合っている。私も今回の研修で学んだことを生かし、商業という教科を通してビジネスにおける課題に前向きに取り組む生徒を育成していきたい。			

特定課題研究レポート

所 属 校	秋田市立秋田商業高等学校	職・氏名	教 諭 ・ 須 田 州 逸
研 究 分 野	A：本県の教育課題に関する研究 B：マネジメントに関する研究 C：生徒指導に関する研究 ④D：教科等指導に関する研究 E：道徳教育等に関する研究 F：特別活動に関する研究 G：総合的な学習の時間に関する研究 H：特別支援教育に関する研究 I：その他		
研 究 テ ー マ	I C Tを活用した教科指導と授業改善について		

1 研究の概要

本校では今年度から生徒に対して一人一台のタブレット端末が配布され、授業等でも積極的な活用が求められるようになった。今年度担当しているビジネス情報・プログラミングという科目では、実習の時間も確保しながら、検定試験へ向けた学習にも取り組んでいる。システム開発やプログラムの構築では、専門的な内容について説明を聞くだけでなく、実際に取り組んで理解を深めることが必要であり、実習時間の確保が課題であった。そのため、知識の定着という部分でタブレット端末を活用して効率的な学習を進めたいと考えた。また、この取り組みが生徒の意欲向上や効率的な学習にどのようなつながるかを検証した。

<授業実践>

I C Tを活用した授業展開として、F o r m sやインターネット教材を用いて短い時間で問題を繰り返し解かせることにした。11月と1月に実施される検定前の2週間の期間を使って実施した。

①インターネット教材を活用した授業展開

授業開始10分間で用語に関する問題を、入力および語群選択で解かせた。誤答の場合は、正答を表示し確認できるようになっており、20問解き終わると、各問題の解説も確認できる。教師は生徒の問題の取り組み回数や知識の定着状況を確認できるようになっている。

②F o r m s教材による家庭学習課題の実施

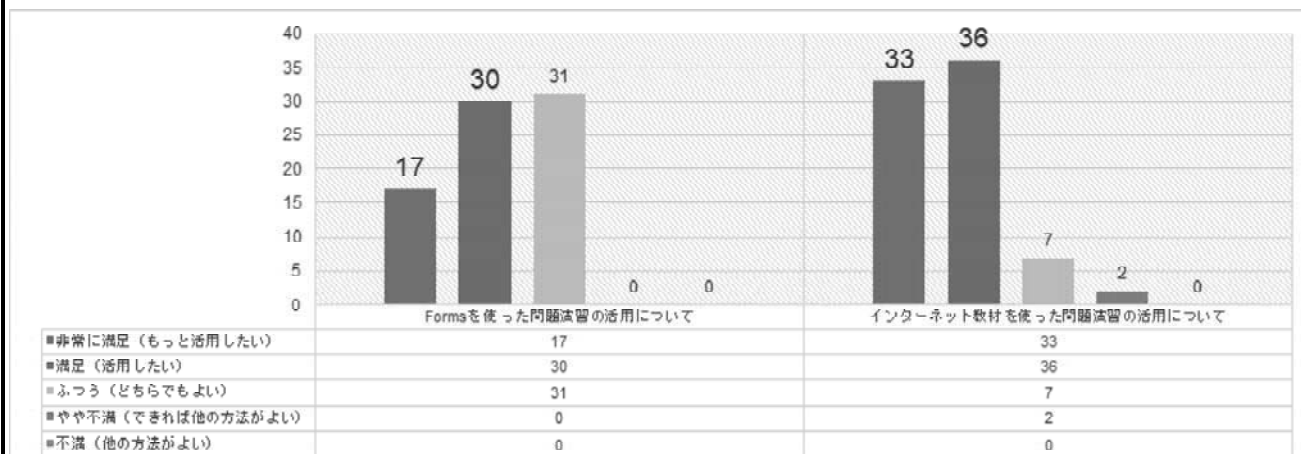
10問程度の用語に関する問題を出題し、その日のうちに提出させた。クラスの解答結果を見て、間違いが多かった問題について、授業の最初5分程度で確認した。

③残りの40分で実習の時間を毎時間設定した。

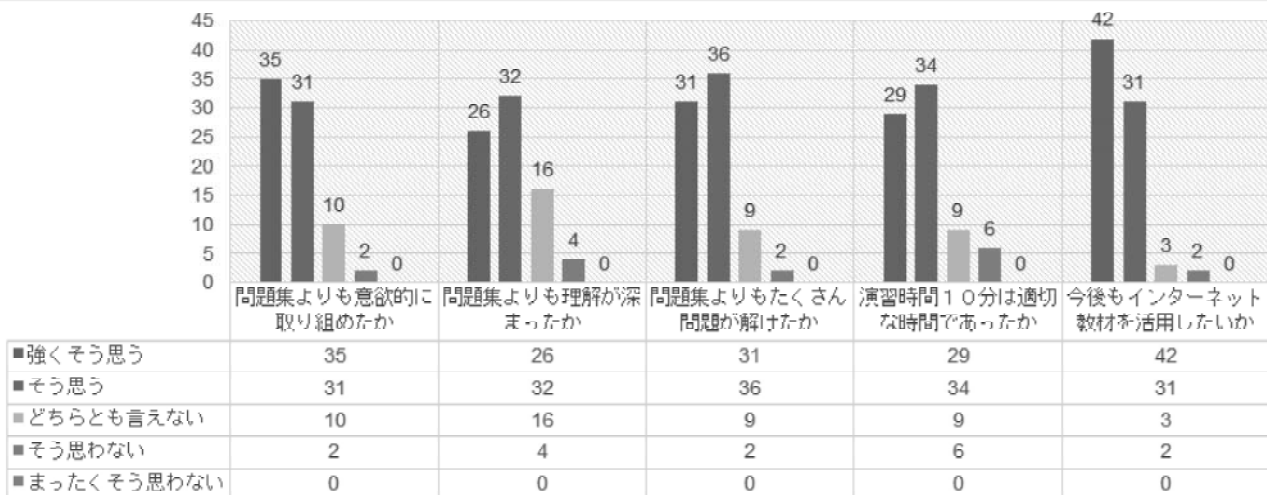
2 成果と課題

実施後に以下のアンケートを実施した。

(1) I C Tを活用した問題演習について



(2) その他質問事項

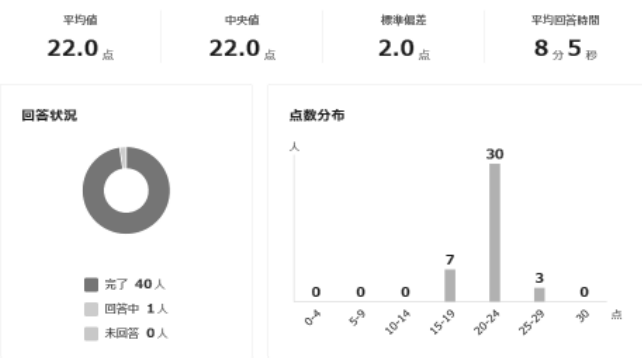


(3) 小テスト (事前・事後結果)

① 「クラスAの事前」小テスト結果



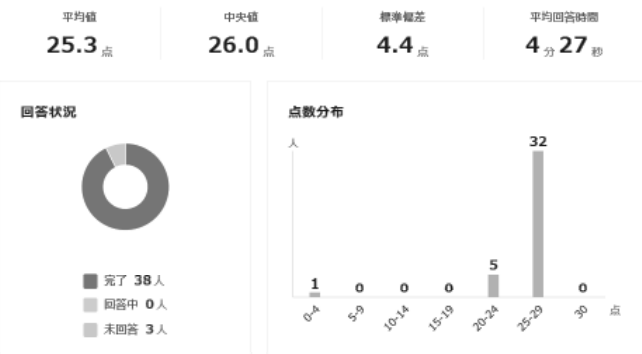
② 「クラスBの事前」小テスト結果



① 「クラスAの事後」小テスト結果



② 「クラスBの事後」小テスト結果



<生徒の感想>

○ Forms およびインターネット教材のどのような点が特に役立ちましたか？

- ・ 10分と言う短い時間でやる気を引き出し、集中して意欲的に取り組めたことがよかった。
- ・ 記憶していない部分などを分析して自分にあった問題を出してくれること。
- ・ 間違えた問題が何度も出題されたことで、理解が深まった。
- ・ 単語を入力することで書けるようになった。
- ・ 手軽にできること・単語と意味が聞かれることで確かめになる点。
- ・ 成績がデータ化されて自分の成長を感じられた。

○Formsおよびインターネット教材のどのような点を改善した方がよいと思いますか？

- ・入力式の問題を増やしてほしい。
- ・解説がほしい。
- ・問題の重複が多いと思った。20問ほどしかないのに2、3回同じ問題が出題され覚えやすかったが、もう少し改善して欲しい。
- ・回答しにくい。

＜考察と今後の課題＞

ICTを活用した問題演習については、「取り組みやすく意欲的・効率的な学習ができた」という意見が多かった。「Forms」の活用について満足していると答えた生徒の割合が60.3%、「インターネット教材」の活用について満足していると答えた生徒の割合が88.5%であった。

インターネット教材は、分析機能によって自分の弱い部分がランダムに出題されることや成績がすぐにデータ化されるなど、生徒も自分の成長が実感しやすいことから満足している割合が高かったと考えられる。また、小テストの結果を見ると正答率が上昇しており、計画的に繰り返し実施することで、知識の定着が期待できると感じた。

Formsは、機能が限られるが目的によって使い分け、出題を工夫することでインターネット教材のような効果が期待できると感じた。また、スマートフォンでも簡単に実施でき、家庭学習で時間を見つけて取り組む習慣を定着させることや取り組みの評価などにも活用できるため、効果的であると感じた。ICTを活用した問題演習で苦手分野を明確にして解説することや個別指導での活用など、個々の生徒の理解をさらに深める効果的な指導につなげることを目指したい。

今年度は、システム開発やプログラムの構築に取り組んで理解を深めるよう実習の時間を多く設定した。検定の取得も生徒にとっては大切なことであり、検定対策などの講義と理解を深めさせる実習をバランスよく実施するということが課題であった。今回ICT機器の活用で、実習で考えさせる部分が少し明確になったことで、授業内容や進度も改善できる部分が多くあった。生徒が主体的に実習に取り組み、システム開発やプログラムの構築について、作成手順を考察し合い、協働して作業に取り組む様子が昨年以上に見られた。こういった授業展開が検定や定期考査などにどのように影響があるかを今後も継続して分析し、評価、改善をしていきたい。

県立学校新任教務主任研修講座

商業科 石 田 雄 哉

1. 講座Ⅰ（5月27日）

(1) 研修内容

講義「これからの秋田県学校教育と教務主任への期待」

秋田県教育庁高校教育課 主任管理主事 石井 勇悦 氏

講義・演習「学校における組織マネジメント」

秋田県総合教育センター 指導主事 山田 直康 氏

指導主事 木村 ふさ子 氏

講義「教務主任の職務と役割」

秋田県総合教育センター 指導主事 木村 ふさ子 氏

(2) 講座を振り返って

教務主任として、大切な心構えや業務について学ぶことができた。秋田県の現状や学校の現状、生徒の状況等を踏まえて学習環境を整え、生徒育成に寄与していくことが求められる。また、管理職や教員間で綿密にコミュニケーションを取りながら、組織をマネジメントしていく意識が重要である。教育計画や教育課程の立案から入試業務まで、重要な業務が続くため、それらのことをしっかりと胸に刻み、職務に臨みたいと思った。

2. 講座Ⅱ（9月7日）

(1) 研修内容

講義・演習「カリキュラム・マネジメント」

秋田県総合教育センター 主任指導主事 小松田 哲也 氏

協議「教務運営に関する課題と解決への取組」

秋田県総合教育センター 指導主事 木村 ふさ子 氏

講義・演習「学校運営に生かすコーチングマインド」

秋田県総合教育センター 教育専門監 三浦 真澄 氏

(2) 講座を振り返って

カリキュラム・マネジメントについて学ぶことができ、国の施策等で求められていること、学校の現状として目指していくべきことを考えることができた。また、他校との協議を通して各校の抱える課題や取り組みを知り、学校経営について議論を深めることができた。学校として求められることは多いが、それらを実現できるよう本校のカリキュラムや教育目標を見直していきたいという思いを新たにすることができた。

そのためにはチームで物事にあたることが必要で、教員間、あるいは生徒とも良好な関係を築くためにコーチングマインドを持つことの大切さを学ぶことができた。

3. 講座Ⅲ（11月4日）

(1) 研修内容

講義・演習「教員のための情報モラル」

秋田県総合教育センター 指導主事 山田 直康 氏

協議「上半期の評価を基にした教育課程上の課題とその対応」

秋田県総合教育センター 指導主事 鈴木 紀子 氏

講義「学校の組織力向上と教務主任の役割」

秋田県総合教育センター スーパーアドバイザー 樋口 隆 氏

(2) 講座を振り返って

育成すべき力としての「情報活用能力」や生徒指導上重要な「情報モラル」、校務にも影響を及ぼす情報セキュリティを学び、それらに対応していくことの重要性を認識した。これからの社会において、必須の能力であり、本校においても、計画的に情報教育をより一層推進していく必要があると感じた。

協議においては、各校ともにICTの活用や評価についての課題が多かった。他校とも情報共有を図り、より適切な学習環境の整備と評価の充実が求められると感じた。

教務主任として、各種の課題に教員と協力しながら組織力を向上できるように取り組んでいきたいと感じた。

4. 研修を終えて

教務主任として求められることは多いが、一つ一つに真摯に向き合い、生徒を育成するために必要な事は何かを考え、全職員と協力しながら、学校の課題を解決していきたい。

生徒育成においては、これからの社会に必要となってくる能力を考え、主体的で対話的な学習の推進とICTを活用した教育に力を入れる必要があると感じた。また、校務においては、新しい評価方法への対応やICTの活用も含めた多忙化の解消等の課題に取り組んでいきたいと考えている。それらを実現するために、全職員で協力し、意見を出し合い、よりよい職場環境を醸成していくことも必要となる。

まだまだ力も経験も不足しているが、目標に向かって一つ一つ取り組んでいきたい。

高等学校新任学年主任研修講座

英語科 関 屋 さやか

1 はじめに

本講座の研修目標は、「学年経営に関する理論と実践の在り方についての研修を通して、実践的な指導力を高める」ことである。学年部の全生徒に対して責任を負うということの重大さを改めて感じ、学年主任とはどうあるべきかを考える貴重な機会となった。

- 2 期 日 第1回 令和4年5月13日
 第2回 令和4年6月23日

3 内 容

- 第1回 (1) 講義「望まれる学年主任像と学年主任の役割」
 秋田県総合教育センター スーパーアドバイザー 樋口 隆 氏
(2) 実践発表「学年経営の実際」
 秋田県立秋田北鷹高等学校 教諭 日景 聡 氏
 秋田県立本荘高等学校 教諭 佐々木 望 氏
(3) 協議「学年経営における課題への対応」
 秋田県総合教育センター 指導主事 八柳 英子 氏
 指導主事 森川 剛 氏
- 第2回 (4) 講義・演習「生徒指導における学年主任の役割」
 秋田県総合教育センター 指導主事 細谷 林子 氏
(5) 講義・演習「学年経営と組織マネジメントの基礎」
 秋田県総合教育センター 指導主事 木村 ふさ子 氏
(6) 講義「思春期の揺れと成長を共に歩む」
 秋田赤十字病院心療センター 臨床心理士 丸山 真理子 氏

4 概 要

- (1) 望まれる学年主任像と学年主任の役割
 〈学年主任の法的根拠〉
 ・学校教育法施行規則44条「学年主任は、校長の監督を受け、当該学年の教育活動に関する事項について連絡調整及び指導、助言に当たる」
 ・秋田県立高等学校管理規則13条「総務主任、教務主任、学年主任又は特別活動主任は、校長の監督を受け、それぞれ当該組織が分掌する事項について連絡調整及び指導、助言に当たる」
 〈理解と納得〉
 ・人は本来、人の命令では動かない。人は命令の背景にある状況の理解・納得で動く。生徒や保護者を理解し、納得させる努力をしているだろうか。
 〈共通理解について〉
 ・図るべき「共通理解」…指示や命令のポイントは、仕事の大局的な意味を伝えることと、メンバーにとっての意味を伝えること。

- ・人はそれぞれ解釈の感覚が違う。ゆえに、最初の手間を惜しまず細かいところまで指示・確認を徹底してはじめて共通理解・共有が図られるのである。
- ・一人で悩まず、他学年の主任と意見交換し、教頭に相談することが大切である。

(2) 学年経営の実際

〈学年主任の仕事内容〉

1. 年度・学期・週・日のスターター
学年教育目標＋生徒と教員の実態＋主任の理想＝学年の方向性
次週・来月・3か月後・来年・3年後を見通す
2. 担任のサポート
トラブル対応・保護者対応・成績不振者・特別な生徒の指導・情報提供
3. 未分担の業務担当
荷物運び・問い合わせ電話・接客対応等
4. 提案・悩み・不満の聞き役
相手が何を望んでいるか？ 共有すべき内容か？ フォローが必要か？
5. 管理職との連携
先生方を守るために報告する（共通理解が必要）
6. PTAとの連携
PTAで全体への情報提供・役員へのホウ・レン・ソウ・外部への広報活動
7. 未知・新種の業務担当
コロナ対応・共通テストに向けて（新課程入試）

(3) 学年経営における課題への対応

- 『今のスタッフがベストメンバー』 目的・目標・原則の共有
- 望ましい姿：○活動目標（目指す生徒の姿）を全員でつくる
○目標は学年部全員で共通理解する
○目標実現に向けた計画と方法を全員で考える
○役割分担し、全員で実践する

(4) 生徒指導における学年主任の役割

〈いじめの理解と対応〉

一人で判断せず、情報を集めて組織で決定した事に基づきチームで対応する。

〈不登校の理解と対応〉

できるだけ早期に発見して、手当てをする。未然防止の取組をする。

〈保護者との連携〉

「傾聴」…心配や不安な気持ちをより丁寧に聴く。

「繰り返し」…話のポイントを復唱し、話したい内容や気持ちを確認する。

「明確化」…まだ言葉にならない気持ちを言語化し、自身の気持ちに気付かせる。

「質問」…必要な情報を得る。関心を持たれていると感じ、安心感。

(5) 学年経営と組織マネジメントの基礎

〈学校における組織マネジメント〉

学校の有している能力・資源を開発・活用し、学校に関与する人たちのニーズに適応させながら、学校教育目標を達成するために、効率的・効果的に資源を統合し、調整すること。

(6) 思春期の揺れと成長を共に歩む

- ・思春期は過去の未解決課題が噴出する時期→トラウマ再燃
- ・トラウマケアに必要なもの
安心で安全な環境、大人・友人との関係構築・学習支援・生活支援・心理治療
- ・教師の仕事は「感情労働」である。→セルフケアし、レジリエンスを高める。
- ・連帯感はストレスへの耐性を高める。

各教科等の指導における資質・能力の育成に向けた言語活動の充実

国語科 柴 田 佳代子

1 はじめに

本講座の研修目標は、「『言語活動の充実』についての基本的な考え方、指導と評価のポイントを確認し、各教科等における資質・能力の育成に向けた指導力の向上を図る」ことである。国語科教員として、これからの社会を生きる力の基盤であると共に学習の基盤ともなる言語活動について改めて考える貴重な機会となった。

2 期 日 令和4年9月8日（木）

3 内 容

- (1) 講義「言語活動を位置付けた指導の実践①」
秋田県総合教育センター 指導主事 物部 長幸 氏
- (2) 協議・演習「言語活動を位置付けた指導の実践②」
秋田県総合教育センター 指導主事 物部 長幸 氏
秋田県総合教育センター 主任指導主事 藤谷 寛 氏
- (3) 公開講演「各教科等の指導における資質・能力の育成に向けた言語活動の充実」
秋田大学大学院教育学研究科 教授 成田 雅樹 氏

4 概 要

- (1) 「言語活動の充実」の背景
言語活動の充実が提起された三つの重要な契機
 - ①「学力」に関する国際的な動向の変化
・知識基盤社会の到来、グローバル化の進展＝変化に対応していく能力の育成。
 - ②国内外の学力調査の結果
・読解力や情報活用力に課題。新しい学力を育成する手立ての一つとして、言語活動がクローズアップされた。
 - ③平成19年（2007）の学校教育法の改正
・生涯に渡り学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させると共に、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育み、主体的に学習に取り組む態度を養う。
- (2) 「学習指導要領」と「言語活動の充実」
 - ①子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指す。
 - ②育成を目指す資質・能力の明確化。
- (3) 言語活動の設定のポイント
 - ①言語活動の有用性
・言語を基盤としたOUTPUT。
 - ②国語科を要とし全教科で行う
 - ③「手立て」としての言語活動

-
-
- ・「言語活動の充実」自体が目的ではない。



- ・目的は各教科等の目標を実現すること。



- ・目標の実現に向けて適切な言語活動を設定する。

④思考力・判断力・表現力等を育む学習活動

- ・各教科等の目標や特質に応じて具体化する。

⑤長期的な見通しをもって繰り返す

⑥評価の方向性

- ・目標に準拠した評価、指導と評価の一体化が必要である。評価基準が教員一人一人で異なるものとならないよう、学校全体で共通理解を図った上で設定していく必要がある。
- ・言語活動は目標実現の手立てであるから、評価の直接的な対象ではない。言語活動を通じて思考、判断した過程や成果を目標に照らしてとらえ評価していく必要がある。

5 おわりに

言語活動はあくまでも手立てであり、大切なことは各教科の目標（ねらい）を達成した生徒の具体的な姿をとらえることである。言語活動が目標（ねらい）を達成する効果的な手立てとなっているかを念頭に、授業を組み立てていく必要がある。

これからの運動部活動の在り方

特別活動部 石 塚 委

1 研修の目標

本講座の研修目標は、運動部活動運営に関する国や県の現状を知り、運動部活動を通してどのような力を身に付けさせるかを考えるとともに、危機管理についての実践力を養う。

2 期 日 令和4年5月20日（金）

3 内 容

＜開講行事・オリエンテーション＞

挨拶 秋田県総合教育センター 主幹(兼)班長 小玉 克男 氏

＜講義・協議＞

①運動部活動の現状と今後の展望 秋田県教育庁保健体育課 副主幹(兼)班長 野中 仁史 氏

②運動部活動の教育的意義 秋田県教育庁保健体育課 指導主事 佐藤 幸彦 氏

＜講義・実習＞

③運動部活動での事故防止と応急手当 秋田大学大学院医学系研究科 准教授 奥山 学 氏

4 概 要

①スポーツを愛好する学生たちが学内にスポーツクラブを作り活動し、その後教師となって全国に広めたという部活動の成り立ちから、生徒数の減少やニーズの多様化という部活動の現状までを確認し、問題点を協議した。また、部活動改革として部活動の質的向上、教員の負担軽減のためにも、部活動指導員制度について学び、その問題点なども協議した。責任の所在、報酬、保険、大会運営、生徒の状況把握、保護者との連携、学校と地域の連携、情報共有など課題は多くあるが、「部活動教員」的な採用なども考えながら進める必要がある。

②部活動とは、生き方を学ぶという以前に生徒のやりたいという気持ちを応援するという事が前提で、だからこそ、適切な休養、正しいトレーニング方法、食事栄養指導も重要になる。

自主的自発的側面と、負荷をあたえる側面とコミュニケーションをとりながらの指導が大切である。そして、今後部活動を維持するためには、それぞれのニーズに応じた活動が出来るような部活動の在り方を考慮し、抜本的な改革に取り組む必要がある。

③この講義では、健康管理と栄養補給について、捻挫・打撲・出血・熱中症などの応急処置の方法などを学んだ。生徒がケガ等をした場合に一番大切なのは、生徒の状態判断であると感じた。

それをできるかできないかで、万が一の時のリスクを軽減させられる。応急手当、救急車を呼ぶか呼ばないかの判断は指導者であれば必ずできるべきであろう。

高等学校情報科におけるプログラミング 高等学校情報Ⅰにおける指導の充実

商業科 佐々木 一 秀

C-25 高等学校情報科におけるプログラミング

【日時・会場】

日時：令和4年8月16日（火）

会場：秋田県総合教育センター

【研修目標】

高等学校新科目「情報Ⅰ」のプログラミングについての基本的な理解を深めるとともに、その実践的な知識と技術を身につける。

【研修内容】

- ① 小・中学校におけるプログラミング教育と高等学校情報Ⅰの要点
＜講義・演習＞ 秋田県総合教育センター 指導主事 山田 直康 氏
- ② 情報Ⅰにおけるプログラミング①
＜講義・演習＞ 秋田県総合教育センター 指導主事 山田 直康 氏
- ③ 情報Ⅰにおけるプログラミング②
＜講義・演習＞ 秋田県総合教育センター 指導主事 山田 直康 氏
指導主事 鈴木 紀子 氏

【概 要】

① 学習指導要領の内容と各校種での目標について

「全校種：総則」情報活用能力の育成を図るため、各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ること。また、各種の統計資料や新聞、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること。

・小学校

- ア 児童がコンピュータで文字を入力するなどの学習の基盤として必要となる情報手段の基本的な操作を習得するための学習活動の充実を図る。
- イ 児童がプログラミングを体験しながらコンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動の充実を図る。

・中学校

- ア コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図る。
- イ 各種の統計資料や新聞、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図る。
※ 双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決や計測・制御のプログラミングによる問題解決の内容が追加された。

【演習資料一部抜粋】

(13) インフルエンザの流行

例題 インフルエンザの流行

40人のクラスの中で、インフルエンザに感染した人が10日間どのように増えていくか。次のようなモデルに従って考えてみる。

- ①0日目、誰か1人が外でウイルスに感染して学校に来る。
- ②その日ウイルスに感染していた人は、翌日までに誰か1人に感染させる。その際、相手も感染しているか否かは問わない。
- ③一度感染した人が、この10日間に回復することはない。
- ④生徒の状態の数値化は、感染していない生徒を0、感染している生徒は次に感染させる生徒の番号とする。

A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z		感染した人の番号の列の																									
---	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(1) 最初に外でウイルスに感染した生徒の番号をセルB2で指定する。

セルB2に1～40までの乱数を発生させる式を入力しない。

(2) 0日目について、セルB2に指定された番号の生徒ならば次に感染させる人の番号、そうでなければ0である。セルC6に適当な式を入力して、セルC6をセルD6～AP6にコピーしない。

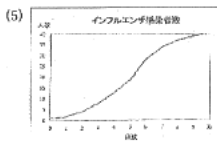
(3) 1日目以降について、前日に感染していたか、前日の列C～APに自分の番号があれば次に感染させる人の番号、そうでなければ0である。セルC7に適当な式を入力して、セルC7をセルD7～AP16にコピーしない。

(4) セルAQ6にその日の感染者数を求める式を入力して、セルAQ6をAQ7～AQ16にコピーしない。

(5) 0日目から10日目までの感染者数をグラフで表さない。

解答例

- (1) セルB2 = INT(RAND() * 40) + 1
- (2) セルC6 = IF(C5 = \$B\$2, INT(RAND() * 40) + 1, 0)
- (3) セルC7 = IF(OR(C6 > 0, COUNTIF(\$C\$6:\$AP\$5, > 0)), INT(RAND() * 40) + 1, 0)
- (4) セルAQ6 = COUNTIF(C6:AP6, > 0)



前問同様に、エクセルでシミュレーションをしてみる。

その後に python でプログラミングしてみる。この問題は先ほどの問題よりも難易度は高い。学校や生徒の実態に合わせて学習内容を取捨選択することが大切。

② 参考URL

<https://qiita.com/7pid-812> 2次元配列を動的に扱う
import matplotlib.pyplot as plt
import numpy as np

#感染状況

infected_status=[]
infected_person=[]

リストで宣言

#最初にウイルスをもらった人

init_virus = int(np.random.rand()*40)+1

Numpy ライブラリを使用

#0日目 次に感染する人を決定 C5に相当する処理

for j in range(40):

if j == 0:

infected_status.append(1)

初めの処理

if (j == init_virus):

infected_status[0].append(int(np.random.rand()*40)+1)

else:

infected_status[0].append('.')

#2日目以降の感染をシミュレート C8に相当する処理

for i in range(10):

virus_count = 0

infected_status.append(1)

for j in range(40):

if (infected_status[i][j] != '.' or

(infected_status[i].count(j) > 0)):

virus_num = int(np.random.rand()*40)+1

infected_status[i+1].append(virus_num)

else:

infected_status[i+1].append('.')

ここがポイント

x=[]

for i in range(17):

x.append(i)

virus_count = 0

for j in range(40):

if (infected_status[i][j] != '.' or

virus_count += 1

infected_person.append(virus_count)

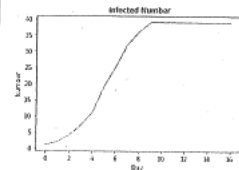
グラフで可視化する

Xは横軸 (日)

感染者数をカウント

感染者数をプロット (縦軸が感染者数)

plt.title("Infected Number")
plt.xlabel("Day")
plt.ylabel("Number")
plt.plot(x, infected_person)
plt.show()



C-27 高等学校情報 I における指導の充実

【日時・会場】

日時：令和4年5月20日（金）

会場：秋田県総合教育センター

【研修目標】

高等学校新科目「情報 I」について理解を深めるとともに、その実践的な知識と技術を身につける。

【研修内容】

① 高等学校情報 I の要点

＜講義・演習＞ 秋田県総合教育センター 指導主事 鈴木 紀子 氏

② コンピュータとプログラミング

＜講義・演習＞ 秋田県立秋田西高等学校 教諭 長岐 孝一 氏

③ 情報通信ネットワークとデータの活用

＜講義・演習＞ 秋田県立仁賀保高等学校 教諭 小西 一幸 氏

【概要】

①-1 情報科が目指すもの

・他の教科等の学びとあわせて、Society5.0に向けて大きく変化する社会で、子供たちが生きて

いくための資質・能力を育むもの。

- ・情報に関する科学的な見方・考え方を重視する。
- ・問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用するための知識および技能を身に付け、実際に活用する力を養うとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養うことを目指している。

①ー２ 共通教科情報科改訂の要点

- ・目標の示し方
「知識及び技能」…何を理解しているか、何ができるか。
「思考力、判断力、表現力等」…理解していること・できることをどう使うか。
「学びに向かう力、人間性等」…どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか。
- ・見方・考え方
事象を情報とその結び付きとして捉え、情報技術の適切かつ効果的な活用により新たな情報に再構成すること。

①ー３ 高校生のプログラミング教育

- ・コンピュータの仕組み、モデル化とシミュレーション、アルゴリズムとプログラミング等を学ぶ。
- ・中学校技術・家庭科技術分野の内容「D 情報の技術」の学習を踏まえたプログラミングを扱う。
- ・学習指導要領には、目的に応じて適したプログラミング言語を選択するよう明記している。
- ・教科書に掲載されているものは、Python、JavaScript、VBA、Swift、ドリトル、Scratch、micro:bitがある。

①ー４ 情報科の目標である「問題の発見・解決」をするための３つのツール

- ・「プログラミング」…高校も全員必須で学ぶ。
- ・「情報デザイン」…情報を論理的に構造化したうえでWebサイトのデザインができるような、発展的かつ体系的な内容とする。
- ・「データの活用」…数字をベースに物事を考える力を育成する。

①ー５ 情報科担当の教員に求められるスキルや心構え

- ・個別最適な指導ができるようにする。
- ・学校全体で情報を学べる環境作りと数学科（数学Ⅰ「データの分析」）との連携した授業を目指す。
- ・学び続ける状況を作り出すカリキュラムマネジメント力を身に付けている。

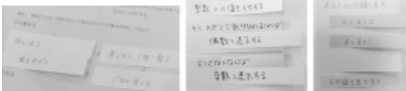
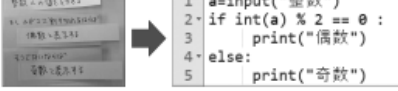
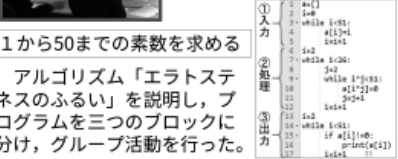
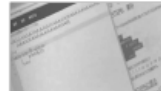
①ー６ 指導と評価の計画

- ・生徒の実態、前単元までの学習状況を踏まえて学習目標を設定する。
- ・評価資料（生徒の反応、ノート、ワークシート、作品等）を基に評価規準を設定する。
- ・授業後、観点別学習状況の評価生徒の学習改善や教師の指導改善につながるようにする。

② コンピュータとプログラミング

- ・共通テストについての対策と課題
サンプル問題から、文章の読解力やデータ・グラフに対する分析力など、情報以外の能力が必要になる。
プログラミングとして言語を学んだだけでは対応できない。また、情報Ⅰの履修学年問題があり、３年生で改めて学習する必要がある。

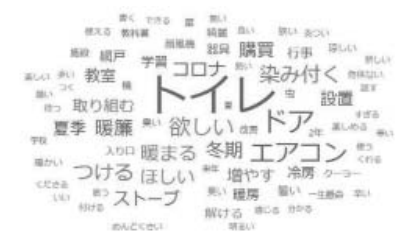
【授業実践例】

授業Ⅰ 「付箋紙によるアルゴリズムの学習」  付箋紙を用いて順次、分岐、反復構造の学習をした。 	授業Ⅱ プログラミング言語Pythonの学習  付箋紙アルゴリズムをPythonに置き換える学習をした。  <pre> 1 a=input("整数") 2 if int(a) % 2 == 0 : 3 print("偶数") 4 else: 5 print("奇数") </pre>	授業Ⅲ プログラミング言語Pythonの学習  スモールステップ型教材を用いた協働的な学習 1から50までの素数を求める アルゴリズム「エラトステネスのふるい」を説明し、プログラムを三つのブロックに分け、グループ活動を行った。  <pre> 1 a=[] 2 i=0 3 while i<50: 4 a[i]=i 5 i+=1 6 i=2 7 while i<50: 8 while i%a[i]==0: 9 a[i]=i 10 i+=1 11 i+=1 12 13 a=[0]*50 14 while i<50: 15 if a[i]==0: 16 print(a[i]) 17 a[i]=1 18 i+=1 19 </pre>
授業Ⅲ プログラミング言語Pythonの学習 「Bit Arrow」とスモールステップシートを左右に並べて表示させ、プログラム作成に取り組んだ。 1から50の数を一つずつ入力して完成させた後で、繰り返し文で入力できることに気づいてコードを作り直した。  	授業Ⅲ プログラミング言語Pythonの学習 - スモールステップシートからプログラムの一部をコピーできることが気づき、完成させた。 - 隣の生徒のプログラムと見比べて自分の誤りを見つけたり、先に完成させた生徒から教えてもらったりしていた。  	授業Ⅳ 全体プログラムの完成と改良  前時で作成した三つのブロックプログラムを統合して全体プログラムを完成させた。また、プログラムを改良してもっと大きな素数を求めたり、大きすぎると計算できなくなることを確かめたりした。 

③ 情報通信ネットワークとデータの活用

- ・学習指導要領の確認
- ・情報通信とネットワーク
- ・データ活用
- ・大学共通テスト
- ・AIテキストマイニングの活用
- ・ビックデータの読み取り（RESASの活用）

【資料】

データの活用  次の流れで学習を進める - データの収集(データベース、オープンデータ、アンケート等) - データの整理、加工、分析(統計手法、データマイニング等) - 結果を可視化(グラフ、Googleデータビジュアライズ等) データを活用する一連の流れから考えさせる(食 大学入学共通テスト対策)	前半【講義】 まとめ 情報通信ネットワーク - IPアドレスの仕組みを軸とする - 実用ができればベスト - その応用は無限 - 情報セキュリティの理解図に軸をのける - 実用して活用 データの活用 - オープンデータの活用事例を体験 - どんなことに活用されているかを知る - データ収集-整理分析-結果発表 - 最終結果としての発表を一通り体験	テキストマイニング  課題文、株式会社会ユーザーロール ATテキストマイニング https://textmining.com/local/
	Google データポータル Googleが無料で提供しているデータセット BigQueryアカウントやGoogleアカウントで利用可 BigQueryは、Googleの「Business Intelligence(ビジネス・インテリジェンス)」の中で、企業の企業データをすべてに集約している膨大なデータを、収集・整理・分析・加工し、経営戦略のための意思決定を支援すること「BigQuery」により行われる。	後半【演習】 まとめ データの活用に関連する課題を学習 - 課題にはオープンデータ(ビッグデータ)がどのように活用されているかを理解 - 大学入学共通テストの対策はオンライン教材の活用が必須 - 情報セキュリティの理解図に軸をのける 今回の学習指導要領(共通教科情報)の改訂が何を意味しているか 軸がブレてはいけません

N I E教材を用いた効果的実践の研究

～答えのない問いの解決に励む生徒の育成を目指して～

商業科 千葉 知 美

I 研究テーマ設定の経緯

1. はじめに

新学習指導要領によれば、児童生徒の資質・能力の育成に向けて、これまで以上に「個別最適な学び」「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていかなければならないと記されている。さらに、「主体的・対話的で深い学び」の実現のためには、「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」といった学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるように、各教科の特質を生かし、充実を図ることが重要である。

2. 本校の現状

本校に着任して2年経つが、私は授業のさ、しばしば本校の生徒の向学心に課題を感じることがある。今年度実施した「スクール・ポリシー」策定のための教員アンケートにおいても、「商業科の学習が資格取得に偏重している」「生徒の向学心や探究心が不足している」との意見が多く上がった。本校生徒の学習面の課題は、多くの教員の共通認識であることがわかる。

2021年度より実施された入試制度改革により、選抜方法は大きく変容した。生徒の能力・意欲・適性等の評価や判定にあたっては、①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度 に基づく評価方法が実施されたことにより、授業の在り方の見直しが必要となった。生徒の進路実現のためには、詰め込み型の指導ではなく、主体的・対話的な授業を展開し、生徒の向学心や探究心を育てる授業が必要不可欠である。

II 研究内容

1. 研究主題の設定

本校の課題

資格取得偏重からの脱却

生徒の向学心・探究心の不足

主体的・対話的な深い学びの充実

- (1) 言語能力 (2) 情報活用能力
- (3) 問題発見・解決能力

本校の2つの課題の解決と、主体的・対話的な深い学びを実現する3つの力を育成するため、効率的な手法を模索し、N I E（新聞活用教育）を活用した授業を実践することにした。

2. 3つの力を育成するためのN I E活動

3つの力を育成するための具体的な手立てを下記のとおりイメージした。

言語能力

- ・記事から、正しい文章表現を身に付けさせたり、語彙を深めたりする。
- ・社会事象や地域の課題に関する記事を踏まえ、自分の意見を客観的に述べる。

情報活用能力

- ・新聞の文章、グラフ、写真から必要な情報を取捨選択できる。

問題発見・解決能力

- ・社会事象や問題への考えを深め、批判的思考力を養う。
- ・社会で起きている出来事を正しく理解させ、社会とのつながりを感じる。

3. 研究仮説の設定

- ・膨大な情報が行き交うインターネット社会で、正しい情報を取捨選択できる力が求められる中、新聞は信頼性の高いメディアであること
- ・ビジネスに関する課題を発見し、解決する力の育成を目標とする商業科の授業において、新聞は社会課題や経済事象に触れることが出来ること

以上のことからNIE教材は、商業科の特質にあった有用な教材であると考えた。

よって、「NIE教材の効果的実践が出来れば、本校の課題解決につながり、問いの解決に意欲的に取り組む生徒の資質を育てることができのではないか」を調査仮説とし、1年間の研究を実践した。

Ⅲ 研究実践

1.実践計画（概要）

科 目	マーケティング（3単位）
対象生徒	2年D組 流通経済コース 37名（男子21名 女子16名）
研究期間	令和3年4月～令和4年2月
実践頻度	2週間に1回程度

※結果として、総授業時間数93時間のうちNIE活動を22時間実施した。

「むずかしく考えすぎず、生徒が新聞に触れる機会を多く設ける」ことを信条とし、NIE活動を取り入れた。

2. 実践紹介

「言語能力の育成」と「学びの深化」を目的として実践した授業の一例を紹介する。

単 元	第2章 マーケティングのプロセス マーケティング・ミックスの要素 (東京法令出版「新訂版 マーケティング」)
-----	--

授業の目標

(株)サクラクレパスの4P政策を理解し、適切に表現することが出来る。

内 容	全2時間
-----	------

	内 容
1時間目	・日経MJ「サクラクレパス大人もハマる（令和3年5月26日）」から、(株)サクラクレパスの4P政策について読み取る。 ・ペアワークで、他者と読み取った内容を共有する。
2時間目	・(株)サクラクレパスの取り組みを、マーケティング用語と関連付けながら考察する。 ※前時にワークシートを回収し、生徒の主な意見をまとめたスライドを使用した。 ・(株)サクラクレパスの4P政策について、ワークシートに自分の言葉で表現する。

使用したワークシート

授業を終えて

生徒の感想（一部）

- ・新聞の中から4P政策を読み取ることは簡単にできたが、自分の言葉で文章にまとめることが難しかった。
- ・他の会社の商品との差別化のため、企業が色々な工夫をしていることが分かった。

教員の感想

使用した新聞記事が、第2章の学習内容のブラッシュアップに効果的な教材であると感じ、教材をもとに授業展開を構成した。生徒は、マーケティング・ミックスに関する知識を踏まえ、今回の新聞記事の内容を読み取ろうとしており、学んだ知識を実際の企業の例と重ね合わせながら、学びの深化ができていた。

【生徒のワークシートより】

価格政策（サクラクレパスの価格戦略に触れる）
消費者の文具の選好は二極化が進んでいる。コスパ・エンスラストでも買える値ごろ感のある文具を推す一方、高単価でこだわりの商品を選ぶ人も増えている。消費者の声に耳を傾け、商品だけでなく女子高生に合った商品を作ることに注力した結果、売上を上げていっている。

→「消費の二極化」や「値ごろ」など、既習のマーケティング用語を使って、文章表現出来ていることがわかる。

チャネル政策（ターゲット、標的市場に触れる）
1921年5月29日に創業したサクラクレパスは子供向けの画材として塗り絵や絵描きに使われていた。子供は使っている一方で10代後半～30代の間は縁遠くなりがちだった。ため筆文具をファッションや雑貨感覚で楽しめるようターゲットの拡大をできるよう取り組んでいる。また、海外市場を開拓し、プロのア티スや絵描きを楽しむ人向けの市場となった。

→サクラクレパスが、時代背景に合わせて、ターゲットの拡大を行っていることに気付くことが出来ている。

文章の記述について、スムーズに取り組める生徒と時間がかかる生徒の差が激しかった。しかし、文章を表現することに苦手意識を持つ生徒も、新聞記事を参考にしながら、活動に取り組んでおり、生徒全員が本時の学習課題を達成できていた。

授業の様子



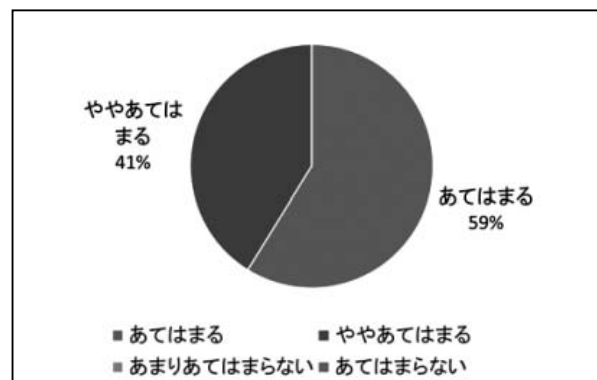
Ⅳ 研究考察

1年間の研究実践について、いくつかの観点から考察する。

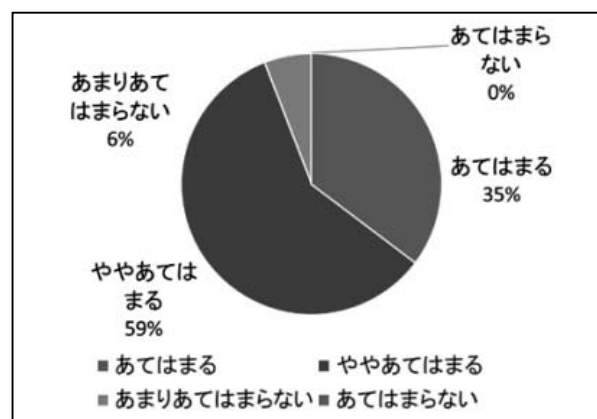
1. NIE活動を振り返るアンケートから

全ての研究実践を終えて、生徒にアンケート実施した。（実施 令和4年7月 回答35名）

Q1. NIE活動を通して、正しく文章表現する力が高まった。【言語能力】

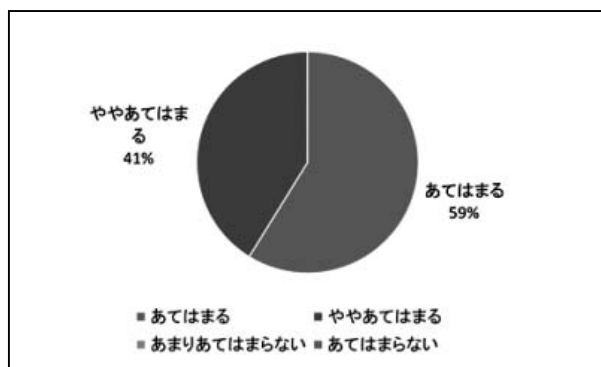


Q2. NIE活動を通して、自分の意見を表現することが得意になった。【言語能力】



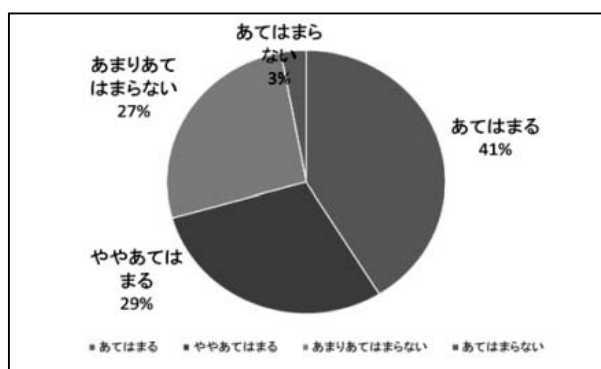
Q 3. N I E 活動を通して、課題解決に必要な情報を選択する力が高まった。

【情報活用能力】



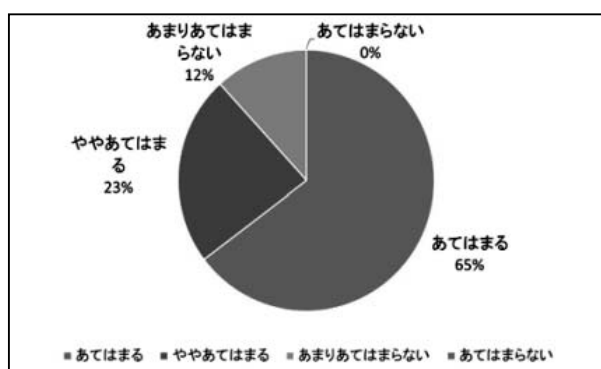
Q 4. N I E 活動を通して、様々な社会問題や地域問題に対して興味を持つようになった。

【問題発見・解決能力】



Q 5. N I E 活動を通して、企業の取り組みや社会の動きについて知りたいと思うようになった。

【問題発見・解決能力】



アンケート結果からわかったこと

- * Q 1 ・ Q 3 では、全員が肯定的な回答しており、N I E 活動は、言語能力と情報活用能力の向上に効果があるといえる。
- * Q 2 で否定的な回答をした生徒がいた。実践方法を工夫し、生徒の自信につなげる手立てが必要。(学習のフィードバックの実施など)

* Q 4 ・ Q 5 より、問題発見・解決能力の向上にも一定の効果があつた。しかし、経済問題や地域課題に関する興味が希薄（探究心不足）

2. 商業経済検定の合格率推移から

下の表は、直近 4 年間の本校の全商商業経済検定「マーケティング」の合格率である。

2 9 年度	3 1 年度	R 2 年度	R 3 年度
3 1.8 % (22/69)	2 5.4 % (14/55)	4 8.2 % (27/56)	6 6.6 % (50/75)

※ () の中は、合格者数／受験者数を表す

過去 3 年と比較し、全商商業経済検定の合格率が増加した。

N I E 活動により、生徒の知識は十分に深まる。むしろ資格取得偏重からの脱却を図ることで、資格取得に良い影響を与えることわかった。

【考察のまとめ】

- ・ N I E 活動を通して、生徒の主体的に主体的・対話的な深い学びを実現するための 3 つの力と向学心の育成につながった。
- ・ 探究心の育成については課題が残る。ただ新聞を読ませるだけでは探究心の育成にはつながらない。入念な教材準備と指導スキルの向上が求められる。

V おわりに

研究を通して、N I E の奥深さや有用性を感じた 1 年であった。今後も N I E 活動の研究に取り組み、複雑化する社会で、絶えず答えの無い問いに立ち向かう意志を持つ生徒を育てていきたいと思う。

秋田県の総合的科目における取り組み －外部講師等を活用した授業実践－

商業科 柏谷 亜紀子

★本校の現状

本校は創立100年を超える伝統のもと、心身ともに健全で人間性豊かな生徒の育成を目指し、文武両道に励んでいる。

しかし、秋田県内唯一の単独商業高校として、地元経済の活性化に貢献できる人材育成が求められる中、通常の授業や資格取得に向けた学習だけでは身につけることが出来ないコミュニケーション能力や問題を発見しその解決策を考える力を身につけさせることが、今まで以上に必要となってくる。

そのため、本校で平成14年度から活動している「ビジネス実践」（1単位）や3年生での「総合実践」（3単位）の中で、より実践的・体験的な学習活動を行い、商業高校生に求められる人材の育成のために、外部講師等を積極的に活用することにした。

★実践内容

1 ビジネス実践

「課題研究」の代替として、総合的な探究の時間に「ビジネス実践」を行っている。この活動は、地元企業と連携し、商品の開発・販売を行う中で、他者とのつながりから社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）の育成を目指している。昨年度は20回目を迎え、秋田市内では認知度も高く、様々な方面からの支援をいただいている。

しかし、私たちを取り巻く環境、特にネット社会の進展とともに人とのかわり方が多様化したことによるビジネススタイルの変化など、開始当時の状況から大きく変化していることや回を重ねることによってマンネリ化してきたことなどから、目標である社会人基礎力を身につけるためには、ビジネスの変化により柔軟に対応する力を身につける学習を行うことが必要となってきた。

そこで、ビジネス実践の中心的活動である「AKI SHOP」ではこれまでも地元企業と連携した商品の開発を行ってきたが、秋田が抱える課題を分析し、解決するためにどのようなビジネスを展開すべきかを考える授業を取り入れることで、地域に貢献できる意欲と知識を持った生徒を育成したいと考え、昨年度から外部講師を活用した授業を行っている。

●地域貢献課地元生産者班の取り組み

秋田市で農場「SENTE」を経営する沢田石武瑠氏の指導による“農業経営”に関する授業を通して、「生産」「経営」「環境」の3つの観点からビジネスとしての農業を学んでいる。昨年度は、



“豊かな人生＝心身共に健やかな状態でエネルギーに前進を続けるライフスタイル”を消費者が送るために、「食」が社会や環境とどのように繋がり、心と体に対してどのような効果をもたらすかを考える授業を実施した。実際にカップ麺のスープと同じ濃度の食塩水を味見したり、一日に摂取すべき野菜の量をつかみ取りさせたり、生徒は「売る」という行為の前にさまざまな考えや知識が必要であることを実感したようである。

また、「差別化」を図るための手法についても学び、生産から消費への橋渡しを体験することができた。

今年度は、秋田の食材を生かし、「食」の幸せを提供することを理念としている「レメデニカホ」のオーナーシェフ渡邊健一氏のご協力のもと、「SENTE（１次産業：生む）」「渡邊シェフ（２次産業：作る）」「秋田商業高校生（３次産業：売る）」を連動した６次産業を、実際の現場で体験させていただいている。



2 総合実践

「総合実践」では３年生全員が３単位を履修している。本校では２年次より３コースに分かれて学習を行うため、総合実践では、これまで各コースの特性を踏まえた授業を行ってきた。

●総合実践学習内容（例年の流れ）

	会計コース	流通経済コース	情報コース
1 学期	社会人として必要なマナーについて ・社会人としての自覚（志望理由書・履歴書の作成・美文字） ・ビジネスマナー（面接練習） ・社会に目を向ける（新聞記事等を利用し、ニュースについて考える）		
2・3 学期	ファイナンスや資産運用に関する学習（FP３級）	同時同業による模擬取引	Illustratorによるインフォグラフィックの作成

今年度は、株式会社プレステージ・インターナショナルの方々を講師に迎え、企業の視点からビジネスマナーや出願書類・面接に関する研修を実施した。さらに３年間の商業での学びのまとめとして、３コースを混合させた班により１１月に開催されるイベントの企画に向けた指導をしていただいている。

【目標と学習内容】

①社会人として必要なビジネスマナー、コミュニケーションスキルを学ぶ

- ・社員が授業している、ビジネスマナー研修を受講し、社会人として必要なビジネススキルを習得する。
- ・就職活動を想定した履歴書の書き方、面接トレーニングを実施し、コミュニケーションスキルを習得する。

<授業内容と配当時間>

分 野	配当時間	学 習 内 容
ビジネスマナー研修	3h	・マナーの必要性 ・基本原則 ①身だしなみ ②表情 ③挨拶 ④態度 ⑤言葉遣い ・信頼される社会人になるために～10の心構え～

履歴書の作成	2 h	・就職活動に向けて ・面接までの主な流れ ・自己PRマトリクスを作成しよう ・応募書類作成
面接トレーニング	1 h	・面接のマナー ・応募書類作成

②学習した内容をビジネスの場でどのように活用するか、実践的なビジネス体験学習を行う

- ・会社が運営する女子バスケットボールチーム「アランマーレ」のホームゲームでの集客イベントの企画、運営を通し、ビジネスに必要な発想力、思考力、実行力を習得する。



＜授業内容と配当時間＞

分 野	配当時間	学 習 内 容
ビジネスマナー研修	6 h	・アランマーレホームゲームの集客イベントの企画立案 - ターゲット選定、コンテンツ企画、プロモーション企画、予算作成
履歴書の作成	2 h	立案した企画をプレゼンテーションする ※最も優れた企画の表彰
実習(11月5, 6日)	任意	最優秀企画を運営

【生徒の感想】

＜ビジネスマナー＞

- ・サービスの提供を「100点」ではなく、「120点」を目標としていることが分かった。120点にするためには、人の力が必要で、一人一人にあった対応がカギとなると分かった。
- ・相手にうまく伝える事の重要性を知ることができた。相手の話をしっかりと聞き、それに対して自分の考えをうまく伝えられるようにしたい。
- ・社会人のマナーの基本は、信頼に繋がるので自分だけでなく会社にも影響することが分かった。
- ・礼儀とは何かをしっかりと知ることができた。今まで礼儀は大切だと常識的に言っていたけど、「相手を思いやる心を形にすること」と中身を学べたことで、これから自分がしていく礼儀に100%の意味を持てると思った。
- ・礼をして座るという行為だけでも、その人の印象が決まるので、行動一つ一つを意識していきたい。



<履歴書作成>

- ・自己PRマトリクスを書くことで、自分の特徴を具体的に把握することができた。
- ・1つ1つの履歴書を見ている時間は2～5分程度ということに驚いた。つまり分かりやすいように要点をまとめるということが大切だと知った。
- ・履歴書を書くには自分のことを詳しく知っておく必要があり、いきなり書こうとするのではなく、日頃から自分の事を知るようにしなければならないと思った。

<面接トレーニング>

- ・面接しているときは相手の目を見て話すことが大切だとわかった。
- ・私は、話すときに早口になってしまうことが分かったので、相手の目を見て笑顔でゆっくりと話すことができるように練習を重ねていきたい。
- ・面接練習をして、意識して直せるところと無意識にやっていることがあるとわかった。無意識の行動を直すのはなかなか難しいと思うので、練習で身につけて行くしかないなので、これから努力していきたい。

★外部講師等活用の成果と課題

【成果】

①社会とのつながりを意識した学習ができる。

商業科目は実学であり、他教科に比べて社会とのつながりを見つけやすい科目ではあるが、専門性が強いいため、生徒は専門知識を覚えることや検定合格に向けた学習によって、学んだことと社会とのつながりを実感する余裕がないように感じる。そういった意味で、外部講師による授業を取り入れることで、普段とは違った見方ができるようになり、結果として生徒の学習意欲を引き出すことにつながっていくと考えている。

②教科・科目横断的な学習ができる。

多くの商業高校では、分野に対応したコースを設定し、そのコースの中でより専門的な学習を行っているのが現状である。専門性を深めるという点では良い履修方法であるが、他の分野の知識が身に付かない場合もある。そのため、各コースで学んだ生徒が各分野の知識を持ち寄ってグループ学習を行うことで、より学習を深めることができ、「協働的な学び」が可能になることが期待できる。

【課題】

①学校と外部との意思疎通をしっかりと行う。

学校が求めていることや目指す生徒像を明確にし、外部講師等と共有することである。また、外部講師等の意見や助言を正確に吸い上げ、それを学校全体に生かそうとする姿勢を持つことがとても重要になると考える。

②外部との連携をイベントにしない。

年間指導計画の中の一部として、教員が行う授業とのつながりが重要になってくる。教員側は、外部との連携が特別なものではなく、授業の一部であるという意識を持ち、普段の授業との統一感を持った授業実践が必要である。

令和4年度 研修対象者・研究会等参加者一覧

【センター研修】

◎A講座（基本研修講座）該当者全員が受講する研修

12 教職5年目研修講座（高等学校）	佐藤 友弥	6/22、9/2
17 実践的指導力向上研修講座（高等学校8年目）	千葉 知美	6/15、8/8
22 中堅教諭等資質向上研修講座（高等学校）	須田 州逸	6/28、7/26、8/25、9/7、10/12、1/10
30 県立学校新任教務主任研修講座	石田 雄哉	5/27、9/7、11/4
33 高等学校新任学年主任研修講座	関屋さやか	5/13、6/23

◎B講座（専門研修講座）学校割当てに基づいて受講する研修

01 各教科等の指導における資質・能力の育成に向けた言語活動の充実	柴田佳代子	9/8
09 これからの運動部活動の在り方	石塚 委	5/20

◎C講座（専門研修講座）希望者が受講する研修

25 高等学校情報科におけるプログラミング	佐々木一秀	8/16
27 高等学校情報Ⅰにおける指導の充実	佐々木一秀	5/20

【新教育課程説明会】

総則	石田 雄哉	8/3
国語	戸澤 恵	8/3
理科（理数含む）	加茂谷糸恵	8/4
外国語	橘 克明	8/4
情報（共通・専門）	大久保 薫	8/4

【商業科】

第70回東北六県商業教育研究大会	瀧澤 徳彦 石塚 委 石田 雄哉 柏谷亜紀子（発表） 千葉 知美（発表）	9/8、9/9
秋田県高等学校商業教育研究会	柏谷亜紀子 石田 雄哉 須田 州逸 佐々木一秀	11/11
商業教育講習会 Webシステム開発入門（ネットワーク活用）	須田 州逸	12/3、12/4

【その他各種研修会・研修会等】

秋田県高等学校生徒指導研究協議会	高橋 伸友	6/17
情報Ⅰ オンライン教材説明会 高等学校情報Ⅰに関するオンライン研修会	佐々木一秀	7/14、8/18
研修会 栄養学説明会	佐々木一秀	7/23
秋田市養護教諭研究会「高校部」研修会	渡邊 文子	8/2
令和4年度養護教諭等研修会	渡邊 文子	8/18
令和4年度 第61回 秋田市学校保健大会	渡邊 文子	10/24～ オンデマンド配信
全県生徒指導研究大会（高教研 生徒指導部会）	小名 由美子	10/28
秋田県高等学校教育研究会情報教育研究大会	柏谷亜紀子 佐々木一秀	11/15
秋田市養護教諭研究会 第2回研修会	渡邊 文子	11/30
令和4年度秋田県学校保健・学校医研修会・学校 精神保健研修会	渡邊 文子	12/3
令和4年度 精神疾患相談対応研修会	渡邊 文子	12/16
不登校への多様な支援の現状	加茂谷糸恵	1/12～2/10の期間中に オンデマンド受講
秋田市養護教諭研究会 第3回研修会	渡邊 文子	2/1
1人1台端末の活用とその先にある教育効果の向 上に向けて	伊藤 史織	2/9、2/16
秋田市医師会 学校医心の問題講演会	渡邊 文子	2/16

編集後記

研修部員から一言ずつ

研修部員ではありましたが、ICT活用に疎く、授業公開週間のアピール授業もようやくでした。おさらい会でも教わる側で、大変申し訳なく思っております。私のような先生方もいらっしゃるかと思いますので、来年度もおさらい会を続けていただき、日々の授業にあたりまえのように活用していけるようになりたいと思います。

戸澤 恵

ICT機器をどのように活用するのかということがテーマになっていましたが、場面に応じての工夫が随所に見られ、授業のみならず教員の業務の効率化にも一定の成果がありました。「おさらい会」の実施により次年度も上手くスタートできると感じています。

鈴木 昌之

ICTを活用した授業実践にいよいよ取り組まなければならない事を実感した一年でした。ICT機器の研修では、一教員として知識・技能不足を痛感しつつ、まだまだよく分からない所は実践していく中でスキルアップしていきたいと思います。

高田 冬深

今年度は1人1台タブレット端末の導入初年度であることから、様々な分掌と連携を図って実践的な研修等を企画しました。研修で得た知識や技術を授業等で活用している先生が多くいらっしゃいました。慣れないことに積極的に挑戦していただき、本当にありがとうございました。この新しい取組が一般化し、生徒が充実した学習活動を行うための手段となるように修正を図っていきたいと考えています。

佐々木 一秀

5年ぶりに教育現場に復帰して授業の組み立てに苦心する中で、先生方の研究授業やアピール授業を参観することができ、とても勉強になりました。研修部員として編集作業にはあまり貢献できませんでしたが、今年度の経験を基に、授業力の向上に努めたいと思います。

藤原 淳一

研究集録に携わることも多くなり、毎年変化を感じています。特に今年度はICTの活用についての研修や、実践が行われ私自身、授業の進め方、在り方を考えさせられました。今後は、研修に参加する機会を増やし、たくさんの報告や取り組みを知り、活かしていきたいと思っています。

嶋田 平

おかげさまで「研修集録第37号」がまとまりました。お忙しい中、寄稿いただいた先生方には深く感謝いたします。ありがとうございました。

今年度は、ICT推進委員会と連携し、ICTの活用に向けた研修、おさらい会などを複数回実施させていただきました。また、救急救命講習会を保健・教育相談部と連携し、紙面上ですが、先生方に情報提供することができました。先生方には、様々な研修へのご参加とご協力をいただき、心より感謝しています。本当にありがとうございました。この1年を次年度につなげていただけるよう、本研修集録を今後の研修・研鑽の場に役立てていただければ幸いです。

伊藤 史織

令和4年度 研修集録

発行日 令和5年3月31日

発行者 秋田市立秋田商業高等学校

〒010-1603 秋田市新屋勝平台1-1

T E L 018-823-4308～9

F A X 018-823-4310

印刷所 社会福祉法人 緑光福祉会



— 校 訓 —

感謝
勤勉
鍛鍊